

もくじ

もくじ	1
はじめに	5

1 章 本体の機能 11

1 ディスプレイ	12
① ディスプレイの設定	12
② 画面の明るさを調整する	14
2 ハードディスクドライブ	15
① ハードディスクドライブについて	15
② 東芝HDD プロテクションについて	16
3 サウンド機能	19
① スピーカの音量を調整する	19
② 音楽／音声の録音レベルを調整する	20
③ サウンドのパワーマネージメントを設定する	21
④ マイクの設定を行う	22
⑤ 聴く環境にあわせて音質を調整する	23
4 SD メモリカード	25
① SD メモリカードについて	25
② SD メモリカードのセットと取り出し	26

2 章 通信機能 29

1 LANへ接続する	30
① ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）	30
② ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）	33
③ ネットワーク設定に便利な機能	46
2 Bluetooth機能を使う	48
① Bluetoothとは	48
② Bluetooth機能を使って通信する	50
3 内蔵モデムについて	53
① モジュラーケーブルの接続	53
② 海外でインターネットに接続する	55

3章 リブレット DVD ドック

57

1	取り付け／取りはずし	58
①	接続する前に	58
②	取り付け／取りはずし	59
2	CD／DVDのセット	67
①	CD／DVDのセット	68
②	CD／DVDの取り出し	69
3	フロントオペレーションパネル	72
4	クイックプレイ	74
①	クイックプレイとは	74
②	クイックプレイの操作一覧	76
③	クイックプレイ (CD)	79
④	クイックプレイ (DVD)	82
⑤	クイックプレイの再インストール	91
5	ドライブ	97
①	使用できるメディアと対応するアプリケーション	97
②	使用できるCD	99
③	使用できるDVD	101
④	DVD-RAMを使うときは	104
6	DVD-Videoを観る	108
①	InterVideo WinDVDを起動する	109
②	InterVideo WinDVDを使う	110
7	リブレットDVDドックの仕様	113

4章 周辺機器の接続

115

- 1 周辺機器について 116
 - ① 周辺機器を使う前に 117
- 2 PCカードを接続する 118
 - ① PCカードを使う前に 118
 - ② PCカードを使う 119
- 3 USB対応機器を接続する 122
- 4 外部ディスプレイを接続する 124
- 5 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 131
- 6 その他の機器を接続する 133
 - ① マイクロホン 133
 - ② ヘッドホン 134
- 7 メモリを増設する 135

5章 バッテリー駆動

139

- 1 バッテリーについて 140
 - ① バッテリー充電量を確認する 141
 - ② バッテリーを充電する 144
 - ③ バッテリーパックを交換する 146
- 2 省電力の設定をする 148
 - ① 東芝省電力 148
- 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 149
 - ① スタンバイ 150
 - ② 休止状態 151
 - ③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する 152

6章 アプリケーションについて 155

- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 156
- 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 157

7章 システム環境の変更 159

- 1 システム環境の変更とは 160
- 2 BIOS セットアップを使う 161
 - ① 起動と終了 161
 - ② BIOS セットアップの画面 163
 - ③ 設定項目 164
- 3 指紋認証を使う 176
 - ① 指紋認証とは 176
 - ② Windows ログオンパスワードを設定する 178
 - ③ 指紋を登録する 178
 - ④ 指紋認証を行う 183

付録 185








- 1 本製品の仕様 186
- 2 言語コード一覧 188
- 3 技術基準適合について 190
- 4 無線 LAN について 202
- 5 Bluetooth について 210
- さくいん 216

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っているると便利な内容を示します。
 役立つ 操作集	知っているると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合 … 「 」 他のマニュアルへの参照の場合 … 『 』 オンラインマニュアルへの参照の場合 … 〈 〉 オンラインマニュアルにはさまざまな情報が搭載されております。

- * 1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- * 2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- * 3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト
アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

特に説明がない場合は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME 2003 / ナチュラル インプット 2003 を示します。


リブレット DVD ドック（同梱／別売り）

リブレット DVD ドックは、ご購入のモデルによって、同梱または別売りです。

CD / DVD、フロントオペレーションパネルを使用するときは、あらかじめリブレット DVD ドックを接続してください。

 詳細について「3章 リブレット DVD ドック」

ドライブ リブレット DVD ドックの DVD スーパーマルチドライブを示します。


 詳細について「3章 5 ドライブ」

記載について

- ・ 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「****モデルのみ」と注記します。
- ・ インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・ アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや同梱の CD / DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・ 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標、または登録商標です。
- ・ i.LINK は商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。

- ・ Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ LaLaVoice、ConfigFreeは株式会社東芝の登録商標です。
- ・ Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標です。
- ・ Symantec、Norton AntiVirusはSymantec Corporationの登録商標です。
- ・ InterVideo、WinDVDはInterVideo,Inc.の登録商標または商標です。
- ・ Sonic RecordNow!はSonic Solutionsの登録商標です。
- ・ TruSurround XT、WOW XT、SRSと  記号はSRS Labs, Inc.の商標です。TruSurround XT、WOW XT、TruBass、SRS 3D、FOCUS技術はSRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用している場合
- ・ ACアダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5～30℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイアル 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者及び著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックする


ワイド画面における画面の引き伸ばしについて

1. 本製品は、各種の画面モード切り換え機能を備えています。テレビ番組等ソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご注意の上、画面モードをお選びください。
2. 本製品を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等において、画面モード切り換え機能等を利用して、画面の引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがありますので、ご注意願います。

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・Windows のツールまたは『困ったときは』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- ・本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- ・クイックプレイの動作中は、自動的に電源を入れる機能を使ってシステムを起動することはできません。タイマー予約なども実行できませんので、ご注意ください。
- ・指紋の認識率には、個人差があります。
- ・指紋認証技術は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』またはインターネット経由で登録できます。

 **参照** 詳細について『さあ始めよう 5 章 3 お客様登録をする』

『保証書』は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

オンラインマニュアルについて

本製品には、パソコンの画面上で見る「オンラインマニュアル」が用意されています。冊子のマニュアルと合わせてお読みください。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [オンラインマニュアル] をクリックする
「オンラインマニュアル」が起動します。



- はじめに
ご覧になる前に、知っておいていただきたいことを説明しています。
- オンラインマニュアルの使いかた
オンラインマニュアルの使いかたを説明しています。
- ソフトウェア
本製品に用意されているアプリケーションソフトウェアについて説明しています。
- こんなことがしたい
本製品を使いやすくする機能や設定を、項目別に説明しています。
- 困ったときは
困ったときの解決方法を、Q&A形式で説明しています。
- 付録
インタフェース仕様とモデム機能について説明しています。
- 用語集
一般的なパソコン用語について説明しています。

メモ

本書の「**参照**」《オンラインマニュアル（検索）：キーワード》は、オンラインマニュアルに説明があることを示しています。「（検索）：」の後に記載されているキーワードを、[検索]画面で検索すると、目的のページを探ることができます。

1 章


本体の機能

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

1	ディスプレイ	12
2	ハードディスクドライブ	15
3	サウンド機能	19
4	SDメモ리카ード	25

1 ディスプレイ

本製品は表示装置として TFT カラー液晶ディスプレイ（1280 × 768 ドット）を内蔵しています。ドットは画素数を表します。
外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

 参照 外部ディスプレイの接続について
「4 章 4 外部ディスプレイを接続する」

表示について

TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示が存在することがありますが、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

1 ディスプレイの設定

このパソコンのディスプレイは、色や壁紙など、さまざまな表示を設定できます。

1 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。

1600 × 1200 ドット	1,677 万色
1280 × 1024 ドット	
1280 × 768 ドット	
1024 × 768 ドット	
800 × 600 ドット	

1280 × 768 ドットより大きな解像度（1280 × 1024 ドットも含む）は仮想スクリーン表示になります。

外部ディスプレイに 1280 × 768 ドットで表示すると、縦方向が伸びて表示されます。

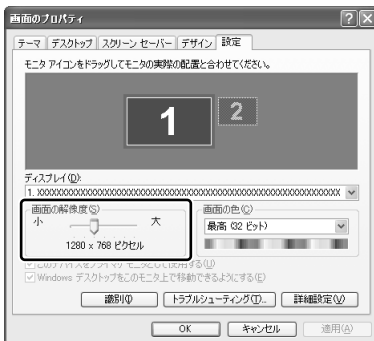
メモ

- 本体液晶ディスプレイへの表示の場合、1,677万色はディザリング表示です。ディザリングとは、1画素（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数画素の組み合わせによって表現する方法です。
- 本体液晶ディスプレイの解像度よりも小さい解像度で表示する場合、初期設定では表示領域部が画面いっぱい大きく表示されます。本体液晶ディスプレイの解像度よりも大きい解像度で表示する場合は仮想スクリーン表示となります。

2 解像度を変更する

解像度を変更すると、画面上のアイコン、テキスト、その他の項目が大きく、または小さく表示されます。外部ディスプレイを接続した場合など、購入時の設定では見にくい場合は、次の手順で変更できます。

- 1 [コントロールパネル] を開き、[デスクトップの表示とテーマ] をクリック→ [画面] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [設定] タブの [画面の解像度] で、解像度を変更する



(表示例)

- 3 [OK] ボタンをクリックする

2 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。初期状態では、「8」（最高輝度）に設定されています。明るさを変えたい場合は、次の方法でお好みの明るさに調整してください。

【輝度の調整方法】

- (FN) + (F6)キーまたは(FN) + (F7)キーを使う

参照▶ 《オンラインマニュアル（検索）：[FN] キーを使った特殊機能キー》

お願い 液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布でふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

バックライト用LEDについて


液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにバックライト用LEDが内蔵されています。バックライト用LEDは、消耗品となります。使用するにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、使用している機種を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。

2 ハードディスクドライブ


内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PC カードタイプ（TYPE II）や、USB 接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

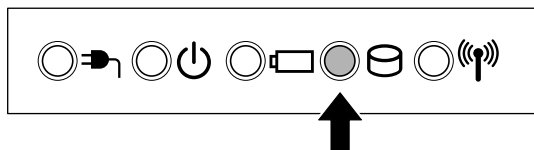
1 ハードディスクドライブについて


お願い 操作にあたって

- Disk  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的なフロッピーディスクやCD／DVDなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVDなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカ、テレビ、磁気プレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LED が点灯します。



PC カードタイプや USB 接続などの増設ハードディスクとのデータのやり取りでは、Disk  LED は点灯しません。

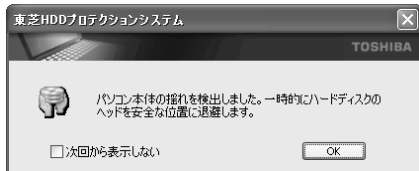
ハードディスクに記録された内容は、故障や損害の原因にかかわらず保証できません。
万一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

2 東芝 HDD プロテクションについて

「東芝 HDD プロテクション」とは、パソコン本体に内蔵された加速度センサーにより振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）を損傷する危険性を軽減する機能です。

パソコンの使用状況にあわせ、検出レベルを設定できます。

パソコン本体の揺れを検知すると、次のメッセージが表示されます。



メッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックして、画面を閉じてください。

HDDのヘッドを退避しているとき、通知領域の[東芝 HDD プロテクション] アイコン (🛡️) が (🛡️) に変わります。

お願い

- 東芝HDDプロテクションは、振動・衝撃およびその前兆を検出するとHDDのヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によってHDDが損傷する危険性を軽減するものです。ただしその効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また、故障などによりHDDの記憶内容が変化・消失する場合がありますが、これによる損害、および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任を一切負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いいたします。

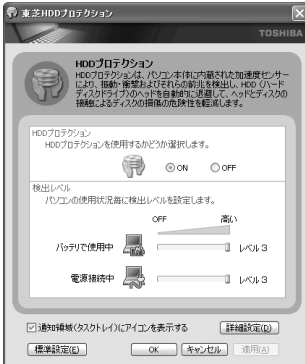
メモ

- 購入時の状態では、東芝HDDプロテクションがONに設定されています。
- パソコン起動時、スタンバイ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝HDDプロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようご注意ください。

設定方法

東芝HDDプロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [HDDプロテクションの設定] をクリックする
[東芝HDDプロテクション] 画面が表示されます。



2 各項目を設定する

設定項目は、次のとおりです。

東芝HDDプロテクションを「ON」に設定すると、電源（ACアダプタ）接続時とバッテリー使用時でそれぞれ検出レベルを設定することができます。例えば、机上でパソコンを使う場合（電源接続中）にはレベルを上げておき、手で持って使うとき（バッテリーで使用中）にはレベルを下げる、といった使いかたができます。

HDD プロテクション	東芝HDDプロテクションの「ON」または「OFF」を設定できます。
バッテリーで使用中	「OFF」、「レベル1」、「レベル2」、「レベル3」のいずれかを選択できます。「レベル3」が最も検出レベルが高いため、東芝HDDプロテクションを有効に使用するには、「レベル3」をおすすめします。
電源接続中	なお使用に応じてレベルを低く設定できます。* 1

* 1 パソコンを手にとって操作したり、不安定な場所で操作した場合、頻繁にHDDプロテクションが動作し、パソコンの応答が遅れることがあります。パソコンの応答速度を優先する場合は、設定を下げてご使用することもできます。

購入時の設定に戻したい場合は、[標準設定] ボタンをクリックしてください。

さらに詳細な設定が必要な場合は手順 3 へ、このまま設定を終了する場合は、手順 6 へ進んでください。

3 [詳細設定] ボタンをクリックする

[詳細設定] 画面が表示されます。

4 必要な項目をチェックし、[OK] ボタンをクリックする

設定項目は、次のとおりです。


AC アダプタを抜いたとき	検出レベル増幅機能を設定できます。パソコンが持ち運ばれる可能性が高いと想定し、約 10 秒間検出レベルを最大にします。
パネルを閉めたとき	
HDD プロテクション動作時 メッセージを表示する	東芝 HDD プロテクションが動作したときに、メッセージを表示するように設定できます。

5 [OK] ボタンをクリックする

[東芝 HDD プロテクション] 画面が表示されます。

6 [OK] ボタンをクリックする

メモ

- 東芝 HDD プロテクションの各設定は、通知領域の [東芝 HDD プロテクション] アイコン () をクリックし、表示されたメニューから項目を選択して行うこともできます。

3 サウンド機能

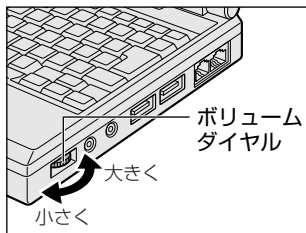
本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

1) スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには奥に、小さくしたいときには手前に回します。



2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート] をチェックすると消音 (ミュート) となります。



【音楽／音声を再生するとき】

ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

ボリュームコントロール	全体の音量を調整する
WAVE	MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player の場合)、DVD-Video など
CD プレーヤー	音楽 CD (BeatJam、Windows Media Player 以外の場合)

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

2 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

1 パソコン上で録音するとき

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] で表示項目を確認する
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク] : マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する
同時に 2 つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

3) サウンドのパワーマネージメントを設定する

本製品では、サウンドコントローラのパワーマネージメント機能を設定できるようになっています。

この機能が有効になっていると、サウンド機能が使われていないときにサウンドコントローラの電源を切ることができ、消費する電力を少し節約することができます。購入時は、本機能が有効に設定されています。

消費電力の節約の程度は、バッテリーの状態によって異なります。

1 サウンドコントローラの起動方法

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [サウンド、音声、およびオーディオデバイス] をクリックする
- 3 [SoundMAX] をクリックする

2 パワーマネージメントの設定方法

- 1 [SoundMAX コントロールパネル] 画面で [電源管理] タブの [パワーモード] で設定したいモードを選択する



【パワーモード】

- **パワーセービング解除**
パワーセービングを解除します。
- **ノーマル・パワーセービング**
一定時間、サウンドコントローラが使われていないと、自動的にパワーセービングを行います。
- **ハイ・パワーセービング**
[タイマー設定] で、パワーセービングを行う時間を設定することができます。

- 2 [OK] ボタンをクリックする

4 マイクの設定を行う

本製品では、マイクから録音するときの設定を行うことができます。
[SoundMAX コントロールパネル] 画面の [マイク] タブで設定します。

参照 → [SoundMAX コントロールパネル] 画面の起動
[本節 3-1 サウンドコントローラの起動方法]



【マイクの設定】

使用しているマイクに適した入力状態を設定します。

- 標準マイク : 市販のデスクトップ型マイクを使用している場合
- ヘッドセット : 市販の装着型マイクを使用している場合

【マイクの設定ウィザード】

音声入力に適したマイクの入力ボリュームを、自動的に設定します。

[マイクの設定ウィザード] ボタンをクリックし、画面の指示に従って操作してください。

【マイクの詳細設定】

[音声録音] に設定すると、ノイズ除去機能によって、音声入力信号から周辺雑音を取り除かれ、クリーンでクリアな信号がアプリケーションに渡されます。この機能は、どのマイクでも使用できます。

[フィルタリングなし] に設定すると、ノイズ除去機能は無効になります。

5 聴く環境にあわせて音質を調整する

本製品には、「TOSHIBA Virtual Sound」が用意されています。

「TOSHIBA Virtual Sound」は、SRS 社の SRS WOW XT (エスアールエス・ワウ・エクスティ) や SRS TruSurround XT (エスアールエス・トゥルーサラウンド・エクスティ) 技術を使い、音楽や音声を聴く環境にあわせて、サウンドの音質を調整するユーティリティです。SRS WOW XT や SRS TruSurround XT 技術の音響強化機能を利用して、お好みの音質でサウンドをお楽しみいただけます。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Virtual Sound] をクリックする

[TOSHIBA Virtual Sound] 画面が表示されます。

[詳細設定を開く] ボタンをクリックすると、更に詳細な調節を行うことができます。



クリックすると、詳細が表示されます。

機能や操作の詳細は「TOSHIBA Virtual Sound」のヘルプを確認してください。
ここでは機能の概要を紹介します。

- 4つのリスニング環境のそれぞれに適した音質を設定する
「内蔵スピーカ」「外部接続スピーカ」「密閉型ヘッドフォン」「開放型ヘッドフォン」の中から、お使いの環境に合わせたモードを選択でき、それぞれに適した音質を設定できます。
- 低音感を調節する
音の出力レベルとスピーカーサイズを調節することにより、低音感をお好みにより設定できます。
- サウンドのステレオ感を調節する
音の広がりをお好みにより設定できます。
- サウンドのクリア感を調節する
音のクリア感をお好みにより設定できます。

ヘルプの起動方法

- 1 「TOSHIBA Virtual Sound」を起動後、画面の【ヘルプ】ボタンをクリックする

4 SD メモリカード

SD メモリカードを SD カードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

1 SD メモリカードについて

SD メモリカードについて説明します。

本製品の SD カードスロットでは、マルチメディアカードは使用できません。

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- 本製品は、1GB までの SD メモリカードを使用できます。
- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべての SD メモリカードの動作保証はできません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。
- SDIO カードを使用する場合、必ず本製品で動作が確認されている製品*¹ を使用してください。その他の SDIO カードを使用すると、システムの動作が不安定になることがあります。

* 1 2005 年 4 月現在、弊社製 SDIO カード「Bluetooth™ SD カード 3」（型番：PA3370N）と「Bluetooth™ SD カード 2」（型番：PABSD001）のみ対応しています。

新品のSDメモ리카ードは、SDメモ리카ードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、SDメモ리카ードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモ리카ードを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、「東芝SDメモ리카ードフォーマット」またはSDメモ리카ードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

「東芝SDメモ리카ードフォーマット」については、《オンラインマニュアル（検索）：東芝SDメモ리카ードフォーマット》をご覧ください。

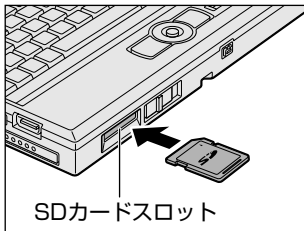
2 SDメモ리카ードのセットと取り出し

お願い

- SDメモ리카ードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、SDメモ리카ードが壊れたりするおそれがあります。
- メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアが壊れるおそれがあります。
- スタンバイ中は、メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- SDメモ리카ードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- SDメモ리카ードを取り出す場合は、必ず使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアが壊れるおそれがあります。

1 セット



1 SD メモリカードのラベルを貼られた面を上にして、SD カードスロットに挿入する



奥まで挿入します。

2 取り出し

1 SD メモリカードの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす SD メモリカード)] を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 SD メモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 SDメモリカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

2 [XXXX (セットしている SD メモリカード) (D:)] (標準値) をダブルクリックする

セットした SD メモリカードの内容が表示されます。

2 章

通信機能

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときについて紹介します。

-
- 1 LANへ接続する 30
 - 2 Bluetooth 機能を使う 48
 - 3 内蔵モデムについて 53

1 LANへ接続する

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。

コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。

本製品には、ウイルスチェックソフトとして「ノートン Norton AntiVirus^{アンチウイルス}」が用意されています。『さあ始めよう 3章』をお読みになり、必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

参照 ▶ コンピュータウイルスについて
『さあ始めよう 3章 1 ウイルスチェック／セキュリティ対策』

1 ケーブルを使ったLAN接続（有線LAN）

本製品には、ブロードバンド接続するためなどに使用するLAN^{ラン}機能が内蔵されています。

LANコネクタにADSLモデムやケーブルモデムを接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。ブロードバンドに必要なネットワーク機器や設定などについて、詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

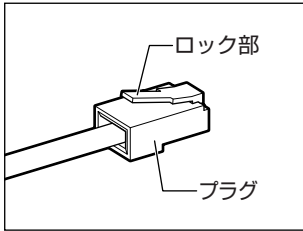
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet^{ファスト} (100BASE-TX)、Ethernet^{イーサネット} (10BASE-T)に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LANコネクタにLANケーブルを接続すると、Fast Ethernet／Ethernetを自動的に検出して切り替えます。

1 LANケーブルの接続

お願い LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。モジュラーケーブルは、アナログ電話回線専用です。LANコネクタには接続できません。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。

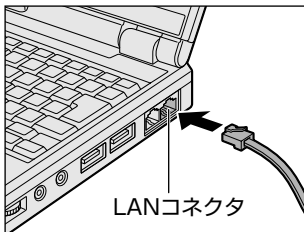
LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) で使用するとき、必ずカテゴリ 5 (CAT5) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。10BASE-T 規格 (10Mbps) で使用するとき、カテゴリ 3 (CAT3) 以上のケーブルが使用できます。カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、大きい数字ほど性能が高くなります。



LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのプラグをパソコン本体の LAN コネクタに差し込む



ロック部を上にして、パチンと音がするまで差し込んでください。

LAN ケーブルはモジュラーケーブルと似ているので、間違えないよう注意してください。

3 LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。


2 Windowsのネットワーク設定


ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。

購入時はコンピュータによって仮の値が設定されています。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って設定を行ってください。また、セットアップが終了し、Windowsの起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。接続するネットワークのネットワーク管理者の指示に従って、パスワードを入力してください。

お願い

ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windowsのセットアップ時にLANケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LANケーブルをはずした状態でWindowsのセットアップを行ってください。

1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ ネットワーク セットアップ ウィザード] をクリックする

[ネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。画面に従って操作してください。

コンピュータ名とワークグループは必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。コンピュータ名が重複すると、エラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。

2 ケーブルを使わないLAN接続（無線LAN）

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータをLANシステムに接続できます。無線LANアクセスポイント（別売り）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値54Mbps無線LAN対応（IEEE802.11gの場合）*1
- 規格値11Mbps無線LAN対応（IEEE802.11bの場合）*1
- 周波数チャンネル選択（2.4GHz帯）
- マルチチャンネル間のローミング
- パワーマネージメント
- セキュリティ機能（WEP152bit、WPA、AES）
- Atheros Super G™ 機能*2

*1 表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

*2 Atheros Super G™ 機能はアクセスポイントや接続先の機器が、この機能に対応している必要があります。また通信するデータの内容により性能は変化します。

【無線LANの種類】

無線LANは、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11gでは「直交周波数分割多重方式」（Orthogonal Frequency Division Multiplexing, OFDM）、IEEE802.11bでは「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance 認定のWi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。Wi-Fiロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

お願い 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です！)

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

- 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)

特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)

傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)

コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い 暗号化

WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線 LAN 経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。

そのため WEP 機能を設定されることを強くおすすめします。

 **参照** ▶ WEP 機能の設定「本項 4-WEP 機能を設定する」

お願い 無線 LAN を使用するにあたって

- 無線 LAN の無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線 LAN は無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 4-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線 LAN を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

2 無線LANネットワークの種類

無線LANネットワークには、次のような種類があります。

- 無線LANアクセスポイント経由で、インターネットやその他の無線LANステーションに接続する

参照▶「本項 2- インフラストラクチャネットワーク」

- 無線LANステーション同士を直接ワイヤレス接続する

参照▶「本項 2- アドホックワークグループ」

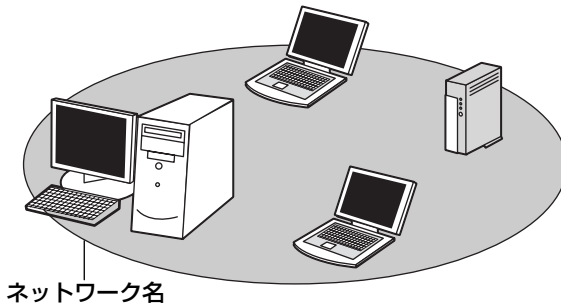
ここでは、インフラストラクチャネットワークの設定方法を例にして、説明します。

インフラストラクチャネットワーク

無線LANアクセスポイントを使用して、バックボーンとなるネットワークに接続し、すべてのネットワーク設備に無線LAN機器でアクセスできる方法です。LANのバックボーンネットワークは、次のどちらでもアクセスできます。

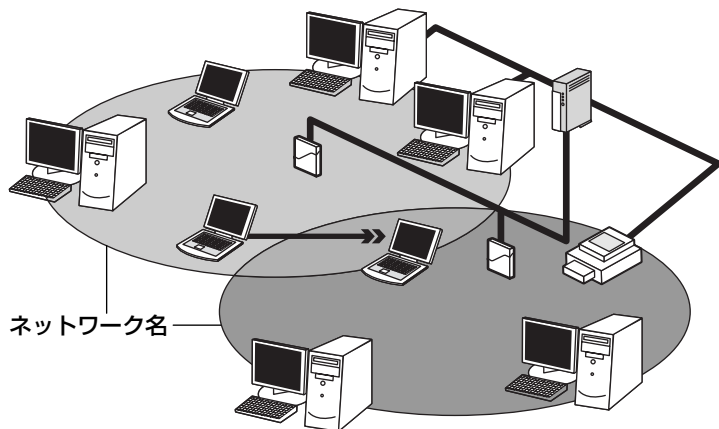
【スタンドアロンネットワーク】

無線LANアクセスポイントのみで構築したネットワークです。



【インフラストラクチャネットワーク】

無線LANアクセスポイントを既存の有線ネットワークに組み込み、既存の有線ネットワークをバックボーンネットワークとするネットワークです。



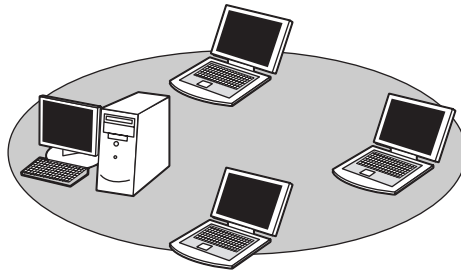
どちらの場合も、ネットワークに接続するには設定が必要です。

参照 → ネットワーク接続のための設定について
「本項 3 無線LAN ネットワークの基本設定」

アドホックワークグループ

無線 LAN アクセスポイントを持たない環境（Small Office/Home Office (SOHO) など）で一時的なネットワークを構築する方法です。アドホックワークグループを設定することで、小規模な無線ネットワークを構築できます。ステーション同士が互いの通信範囲内にある場合は、これが最も簡単かつ低コストに無線ネットワークを構築する方法です。

このワークグループでは、Microsoft ネットワークでサポートされているような [ファイルとプリンタの共有] などの機能を使用したファイル交換ができます。家族や友人同士でデータを共有したり、ファイルのやり取りをしたい場合などに便利です。





アドホックワークグループでネットワークを構築するには、設定が必要です。

3 無線 LAN ネットワークの基本設定

Windows XP は、標準で無線 LAN ネットワークに対応しています。接続したい無線 LAN ネットワークに応じて設定が必要です。

ネットワーク設定の方法

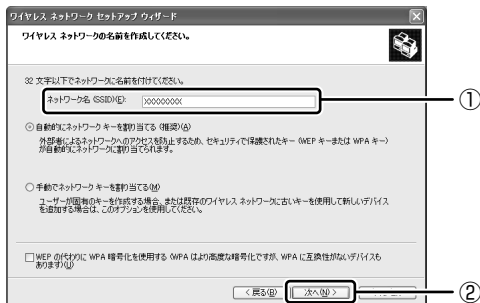
- 1 [コントロールパネル] を開き、[ ネットワークとインターネット接続] をクリックする
- 2 [ ワイヤレス ネットワーク セットアップ ウィザード] をクリックする
[ワイヤレスネットワークセットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。

3 [次へ] ボタンをクリックする



[ワイヤレスネットワークの名前を作成してください。] 画面が表示されます。パソコン本体に無線 LAN ネットワークを設定してある場合は、[タスクを選択してください。] 画面が表示されるので、指示に従ってください。手順 4 または手順 5 に進みます。

4 ネットワーク名を入力し①、[次へ] ボタンをクリックする②



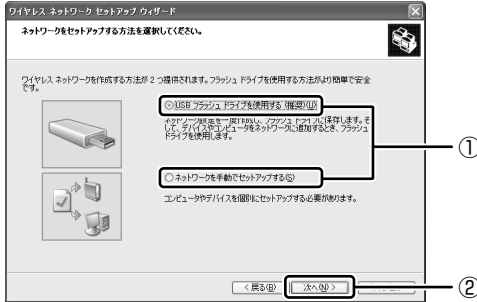
[ネットワークをセットアップする方法を選択してください。] 画面が表示されます。

すでに無線 LAN ネットワークの環境がある場合など、ユーザがネットワークキーを任意で入力したい場合は、[手動でネットワークキーを割り当てる] にチェックし、[次へ] ボタンをクリックしてください。[ワイヤレスネットワークのための WEP キーを入力してください。] 画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

▶参照 「本項 4- WEP 機能を設定する」

5 目的の方法をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②

他のコンピュータやデバイスを実無線 LAN ネットワークに追加する方法を選択します。



市販の USB フラッシュドライブを使用して、無線 LAN ネットワークを簡単に安全にセットアップしたい場合は、[USB フラッシュドライブを使用する] をチェックしてください。USB フラッシュドライブでセットアップするための画面が表示されるので、指示に従ってください。

それ以外の場合は、[ネットワークを手動でセットアップする] をチェックしてください。

[ウィザードの完了] 画面が表示されます。

6 [完了] ボタンをクリックする



(表示例)

手動で無線 LAN ネットワークのセットアップを行う場合は、[ネットワークの設定の印刷] ボタンをクリックしてください。ネットワークキーなどの設定が記載されている [無題 - メモ帳] 画面が表示されます。

他のパソコンを無線 LAN ネットワークに加える場合は、[無題 - メモ帳] に記載されている内容を保存し、設定を行ってください。

4 詳細設定

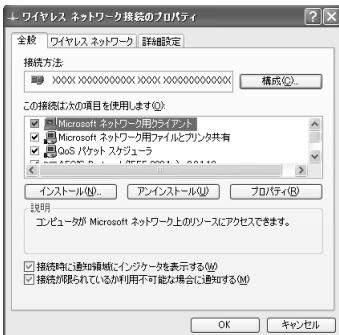
無線LANは、ほとんどのネットワーク環境において基本的な設定だけで動作します。インフラストラクチャネットワークに接続している場合の詳細設定は、[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面で行います。

プロパティ画面の表示

- 1 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする
- 2 [ネットワークタスク] の [ネットワーク接続を表示する] をクリックする
[ネットワーク接続] 画面が表示されます。
- 3 [ワイヤレスネットワーク接続] を選択し①、[ネットワークタスク] の [この接続の設定を変更する] をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面が表示されます。



設定を変更したあと、[OK] ボタンをクリックし、画面を閉じてください。

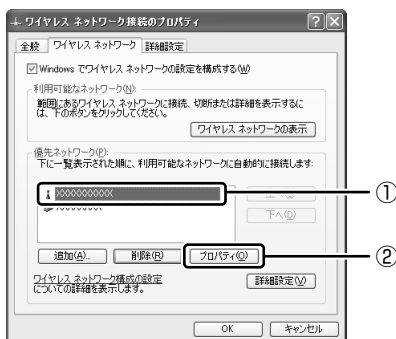
WEP 機能を設定する

WEP (Wired Equivalent Privacy) とは、無線で伝送されるデータを暗号化する機能です。WEPでの暗号化には128ビット、64ビットの2種類があり、プロパティ画面で設定できます。

1 [ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ] 画面を開く

参照 → 「本項 4- プロパティ画面の表示」

2 [ワイヤレスネットワーク] タブの [優先ネットワーク] でネットワーク名をクリックし①、[プロパティ] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークのプロパティ] 画面が表示されます。

3 [データの暗号化] で ▼ ボタンをクリックし、[WEP] を選択する



4 ネットワークキーを設定する

ネットワークキーの設定がわからない場合は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

- ネットワークキーが自動的に提供される場合

[キーは自動的に提供される] がチェックされていることを確認する

- ネットワークキーが自動的に提供されない場合

① [キーは自動的に提供される] のチェックをはずす

② [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力する

入力する文字の種類によって文字数が決められています。また、文字数によって設定されるセキュリティのレベルが異なります。ネットワーク上で接続する機器同士は同じセキュリティレベルに設定してください。

セキュリティレベル	文字の種類と文字数	
	半角英数文字	16進数
高 (128ビット)	13文字	26文字
低 (64ビット)	5文字	10文字

ネットワークキーは「**** (アスタリスク)」で表示されます。

5 [OK] ボタンをクリックする

手順4で指定以外の文字数でネットワークキーを入力するとエラーメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてメッセージを閉じ、もう1度手順4からやり直してください。

5 無線LANを使う

警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。
また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い

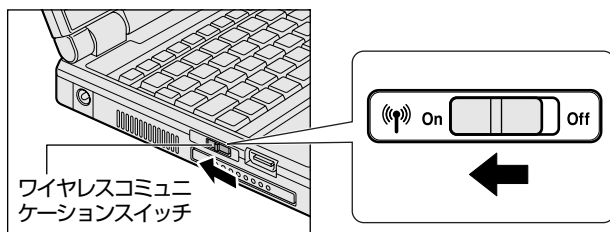
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

メモ

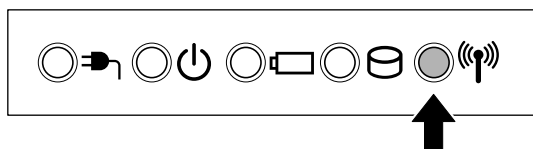
- ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、**(FN)**キーを押したまま、**(F8)**キーを押すたびに無線LAN機能とBluetooth機能を切り替えます。

ここでは、ネットワークに接続している他のパソコンの確認について説明します。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (無線LAN) LEDが点灯します。



無線 LAN 機能が起動します。

無線 LAN 機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから [利用できるワイヤレスネットワークの表示] をクリックする

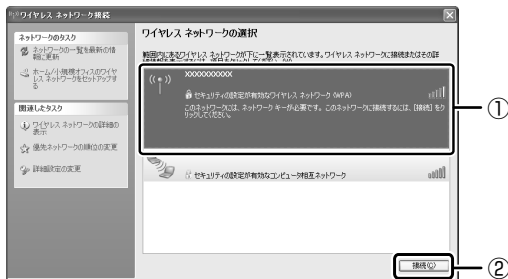
[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

3 [ワイヤレスネットワークの選択] の使いたいネットワークを選択し

①、[接続] ボタンをクリックする②

WEP 機能を設定しているネットワークに接続するときは、ネットワークキーを入力する画面が表示されます。[ネットワークキー]、[ネットワークキーの確認入力] にネットワークキーを入力し、[接続] ボタンをクリックしてください。

参照 ネットワークキー「本項 3- ネットワーク設定の方法」



接続できると、通知領域に [ワイヤレスネットワーク接続 に接続しました] とメッセージが表示されます。

4 [スタート] → [マイコンピュータ] を開き、[その他] の [マイネットワーク] をクリックする

5 [ネットワークタスク] の [ワークグループのコンピュータを表示する] をクリックする

無線 LAN でつながれた、他のパソコンなどのデバイスが表示されます。

通信状態を確認する

〔ワイヤレスネットワーク接続〕アイコンをクリックすると〔ワイヤレスネットワーク接続の状態〕画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

ヘルプの起動

無線 LAN の詳しい情報は『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

3 ネットワーク設定に便利な機能

本製品に用意されている「コンフィグフリーConfigFree」を使うと、次のようなネットワーク設定に便利な機能が使えます。

- 近隣で使われている無線 LAN デバイスの SSID を検出し、信号の強度に応じて仮想のマップ上に表示します。
- 登録しているメンバーと会議をしたり、ファイルを送信できます。
- ネットワークの診断を行い、問題があればその原因や対応策を表示します。
- 自宅やオフィスなどのネットワーク設定をプロファイルとして登録しておけば、プロファイルを選択するだけでネットワーク設定やネットワークデバイスを切り替えられます。
- 有線 LAN ケーブルが抜かれたときに、自動で無線 LAN に切り替えます。
- 無線 LAN アクセスポイントのネットワーク名 (SSID) に接続すると、そのネットワークで作成されていたプロファイルに自動的に切り替わります。

など

他にも便利な機能が色々用意されています。

詳細については「ファーストユーザズガイド」をご覧ください。

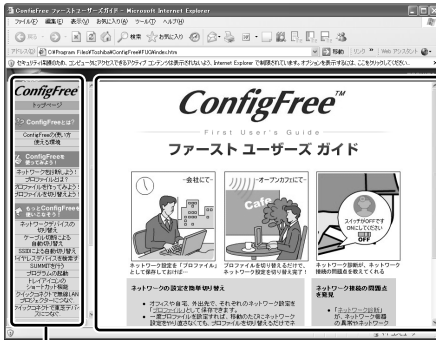
「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

ファーストユーザーズガイドの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をクリックする

「ファーストユーザーズガイド」が表示されます。


左側に主な目次が並んでいますので、目的の項目をクリックすると右側に説明が表示されます。



説明が表示されます。

主な目次です。


「ConfigFree」の起動方法

購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン () が表示されています。

「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ネットワーク] → [ConfigFree] をクリックする

[ConfigFree (ネットワーク診断)] 画面が表示されます。

[タスクトレイに常駐する] をチェックすると、通知領域にアイコン () が表示されます。

「ConfigFree」を起動したときは、「ConfigFree」の説明画面 (Overview) が表示されます。以降必要のない場合は、[次回から表示しない] をチェックし、[閉じる] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

「ConfigFree」の詳細については、「ファーストユーザーズガイド」を確認してください。

「ファーストユーザーズガイド」は、「ConfigFree」を起動して、表示された画面の [ヘルプ] ボタンをクリックして表示させることもできます。

2 Bluetooth機能を使う

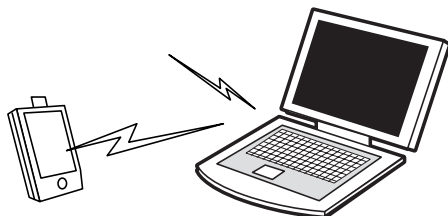
1 Bluetoothとは

ブルートゥース

Bluetoothとは、無線通信方法の1つです。Bluetooth対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SDカードタイプのBluetooth通信カードを装着したPDAとデータをやり取りしたり、Bluetooth対応のマウスを利用したりできます。

- PDAやマウスと…

(使用例)



また、Bluetooth対応機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となるBluetooth対応機器1台（マスタデバイス）と、それに応答するBluetooth対応機器7台（スレーブデバイス）で最大で8台の構成になります。2つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

お願い

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる地域については、同梱の『ご使用できる国／地域について』を確認してください。

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1、1.2、2.0、2.0+EDRのBluetooth対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

【サポートしているプロファイル一覧】

本製品でサポートしている Bluetooth プロファイルは次のとおりです。

- **ダイヤルアップネットワーキングプロファイル (DUN)**
ダイヤルアップで接続するプロファイルです。
- **FAX プロファイル (FAX)**
ファックスを転送するプロファイルです。
- **LAN アクセスプロファイル (LAP)**
アクセスポイントに接続するプロファイルです。
- **シリアルポートプロファイル (SPP)**
シリアルポートを使って接続するプロファイルです。
- **ヒューマンインタフェースデバイスプロファイル (HID)**
マウスやキーボードを接続するプロファイルです。
- **ハードコピーケーブルリプレースメントプロファイル (HCRP)**
印刷を行うプロファイルです。
- **ファイル転送プロファイル (FTP)**
ファイルを転送するプロファイルです。
- **オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)**
vCard などのフォーマットのファイルを交換するプロファイルです。
- **ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)**
Bluetooth の環境設定を変更するプロファイルです。
- **サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)**
SDP を制御するアプリケーションに関するプロファイルです。
- **サービスディスカバリープロトコル (SDP)**
サービスを探すプロトコルです。
- **アドバンストオーディオディストリビューションプロファイル (A2DP)**
高品質のオーディオを転送するプロファイルです。
- **オーディオ／ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP)**
オーディオ・ビデオのリモコンに関するプロファイルです。
- **ジェネリックオーディオ／ビデオディストリビューションプロファイル (GAVDP)**
オーディオ・ビデオコンテンツを転送するプロファイルです。
- **パーソナルエリアネットワーキングプロファイル (PAN)**
IP ベースのネットワークをサポートするプロファイルです。
- **ベーシックイメージングプロファイル (BIP)**
画像ファイルを送受信するプロファイルです。

Bluetooth を利用して Pocket PC と ActiveSync を行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常は COM7 ポートを指定することができます。

2 Bluetooth 機能を使って通信する

1 Bluetooth 通信が可能な状態にする

警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ってください。ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い

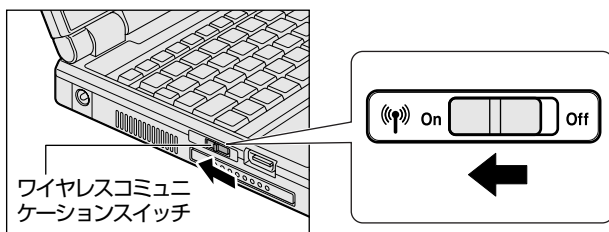
Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断されることがあります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

メモ

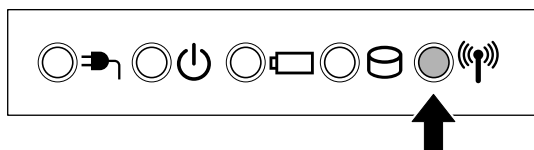
- ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、**(FN)**キーを押したまま、**(F8)**キーを押すたびに無線LAN機能とBluetooth機能を切り替えます。

Bluetooth 機能の起動方法


- 1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション (Bluetooth) LED が点灯します。



2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [Bluetooth 設定] をクリックする


「Bluetooth Manager」が起動し、通知領域に [Bluetooth Manager] アイコン () が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回 Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。

初めて起動したときは、ドライバのインストールを自動的に行う画面が表示されます。[同意する] を選択して [OK] ボタンをクリックすると、[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面を表示せずに自動的にドライバをインストールすることができます。[同意しない] を選択した場合は [新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示されますので、画面に従ってインストールを進めてください。


[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、[いいえ、今回は接続しません] または [ソフトウェアを自動的にインストールする] をチェックし、画面に従って操作してください。

途中、「Windows XP との互換性を検証する Windows ログテストに合格していません」というメッセージが表示されますが、Bluetooth 対応機器のドライバに関してはデジタル署名を必要としないので、[続行] ボタンをクリックして次の画面に進んでください。



[Bluetooth Manager] アイコン () はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、ヘルプを確認してください。

無線 LAN (Wireless LAN) と同時に使用する際の [注意] 画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、[OK] ボタンをクリックして画面を閉じてください。

Bluetooth の電源が入っていない場合には、[Bluetooth Manager] アイコン () を右クリックして表示されたメニューから、[パワー ON] を選択して電源を入れてください。

本製品には、他の Bluetooth 対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」がプレインストールされています。初めて Bluetooth を使うときには、ユーティリティの設定が必要になります。設定方法や通信する方法については、『Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

『Bluetooth 東芝ユーティリティユーザーズガイド』では、「Bluetooth Stack for Windows by Toshiba」について説明しています。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [Bluetooth] → [ユーザーズガイド] をクリックする

3 内蔵モデムについて

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 モジュラーケーブルの接続

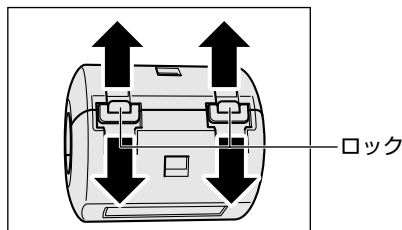
モジュラーケーブルを接続する際、同梱のコアをモジュラーケーブルに接続すると、雑音を軽減することができます。

モジュラーケーブルとコアは、次の手順で接続してください。

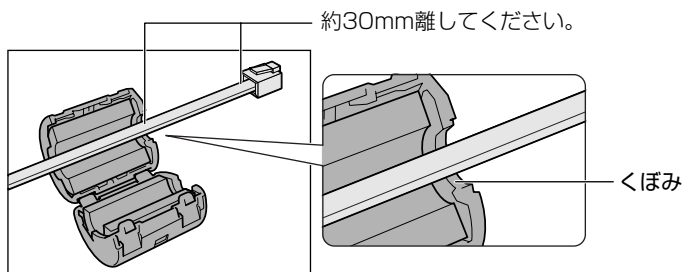
⚠ 注意

- コアをモジュラーケーブルに取り付ける際、必ずコアのくぼんでいる部分にケーブルをセットしてください。また、パソコンに接続するプラグ部分はコアの外になるようにセットしてください。くぼんでいる部分ではない場所にセットしたり、プラグをコア内部に入れてセットすると、モジュラーケーブルが破損するおそれがあります。

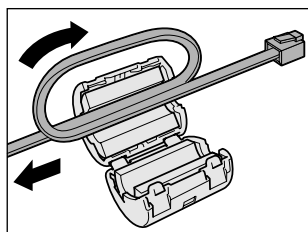
1 ロックをはずし、コアを開く



- 2 モジュラーケーブルの一方のプラグから約 30mm 離れた位置に、ケーブルがコアの中央にあるくぼみに合うようにしてコアを置く

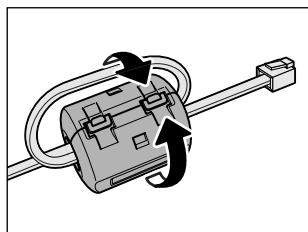


- 3 モジュラーケーブルを図のようにコアに巻きつける



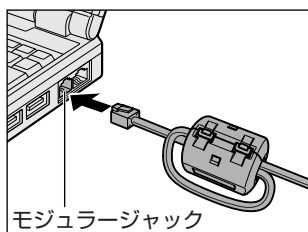
ゆとりを持って一周巻き付けます。
巻き付けるときに、モジュラーケーブルを
引っ張らないようにしてください。

- 4 ケーブルやプラグをはさまないように、注意してコアを閉じる



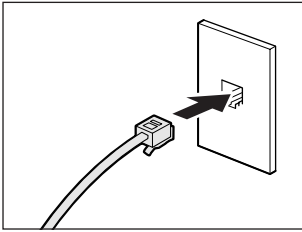
カチッと音がしてロックされるまで、しっ
かりと閉じてください。

- 5 モジュラーケーブルのコアを取り付けた方のプラグを、パソコン本体のモジュラージャックに差し込む



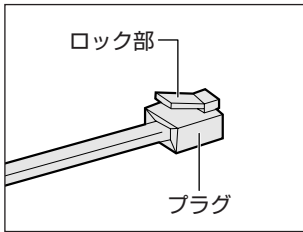
カチッと音がするまで確実に押し込んでく
ださい。
モジュラージャックと LAN コネクタは形
状が似ているので、間違えないよう注意し
てください。
LAN コネクタにモジュラーケーブルを差
し込むと故障の原因になるため、差し込む
前に確認してください。

6 モジュラーケーブルのもう一方のプラグを電話機用モジュラージャックに差し込む



ISDN回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ（TA）またはダイヤルアップルータのアナログポートなどに接続してください。
ビジネスホンなど非アナログ回線には接続しないでください。

【モジュラーケーブルを取りはずすとき】



モジュラーケーブルのプラグのロック部を押さえながら抜きます。

2 海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 3 技術基準適合について」を参照してください。

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。設定方法については、《オンラインマニュアル（検索）：海外でインターネットに接続する》をご覧ください。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

3章

リブレット DVD ドック

リブレット DVD ドックは、ご購入のモデルによって、同梱または別売りです。

リブレット DVD ドックをパソコン本体に接続すると、CD / DVD を使用できます。ここでは、取り付け方法など、使いかたを説明しています。

また、DVD-Video や音楽 CD を楽しむときに便利な、クイックプレイについても説明しています。

1	取り付け / 取りはずし	58
2	CD / DVD のセット	67
3	フロントオペレーションパネル	72
4	クイックプレイ	74
5	ドライブ	97
6	DVD-Video を観る	108
7	リブレット DVD ドックの仕様	113

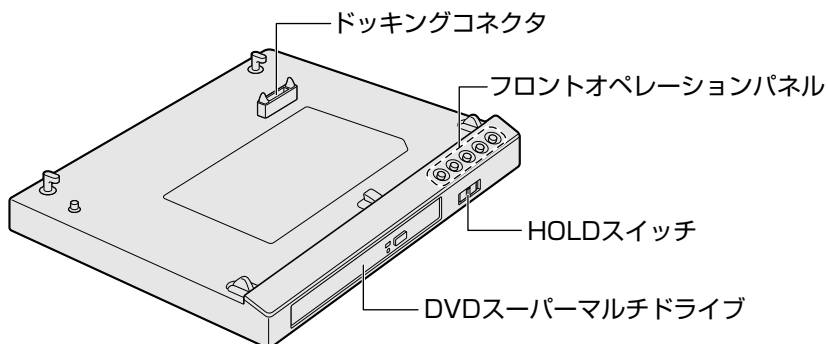
1 取り付け／取りはずし

リブレット DVD ドックは、本製品のドッキングポートに接続します。
リブレット DVD ドックを取り付けることにより、CD / DVD を使用できます。

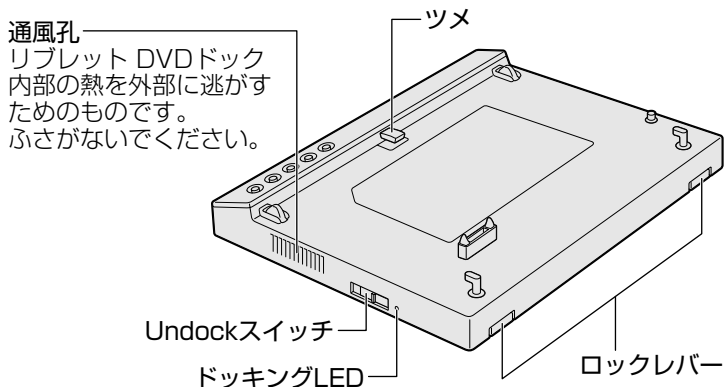
1 接続する前に

接続する前に、リブレット DVD ドックの各部の名前について説明します。

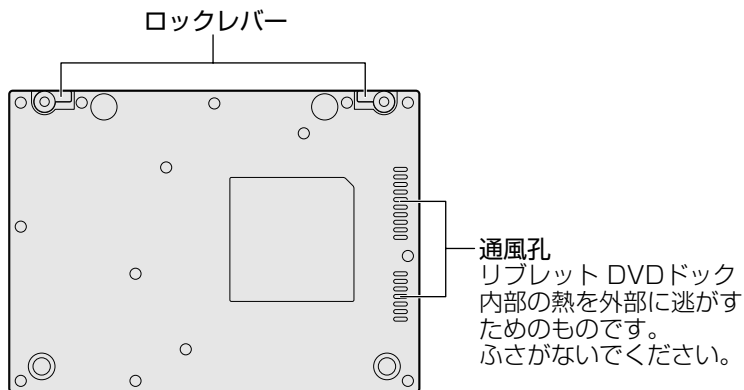
【前面図】



【背面図】



【裏面図】



2 取り付け／取りはずし

リフレット DVD ドックの取り付け／取りはずしについて説明します。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

- リフレット DVD ドックを取り付け／取りはずす場合は、起動中のアプリケーションまたはクイックプレイを終了させてください。
- リフレット DVD ドックの取り付け／取りはずしを行う場合は、パソコン本体のコネクタからケーブル類をすべて取りはずしてください。ケーブル類を取り付けたまま、リフレット DVD ドックの取り付け／取りはずしを行うと、コネクタ部分に無理な力が加わり、破損するおそれがあります。
- リフレット DVD ドックはホットドッキング・アンドッキングに対応しています。ホットドッキング・アンドッキングとは、電源を入れた状態でパソコン本体とリフレット DVD ドックの取り付け／取りはずしを行うことです。ただし、電源を切ってから行うことをおすすめします。また、電源が入っている状態で取りはずす場合は、リフレット DVD ドックの使用を停止してください。

参照 → 「本項-2 取りはずし」の手順 5

-
- 次のときにホットドッキング・アンドッキングを行わないでください。正常に動作しない場合があります。
 - ・ パソコン本体を起動してから Windows が完全に起動するまでの間（「libretto」、「Windows XP」と画面に表示されている間）
 - ・ BIOS セットアップ起動時
 - ・ 休止状態への移行時と復帰時
 - ・ クイックプレイ起動中
 - パソコン本体にリブレット DVD ドックを取り付けた状態で持ち運ぶときは、誤って電源が入らないように、フロントオペレーションパネルのボタン機能を無効にしてください。
ボタン機能を無効にするには、HOLD スイッチを左側（←HOLD）にスライドします。

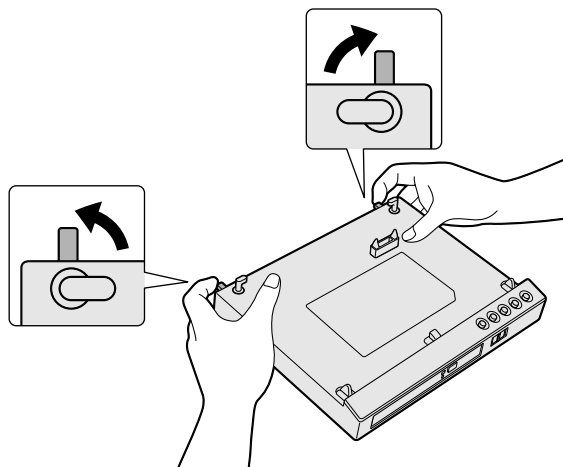
参照▶ 詳細について「本章 3 フロントオペレーションパネル」

また、持ち運ぶときに守ってほしいことが、『さあ始めよう』に記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

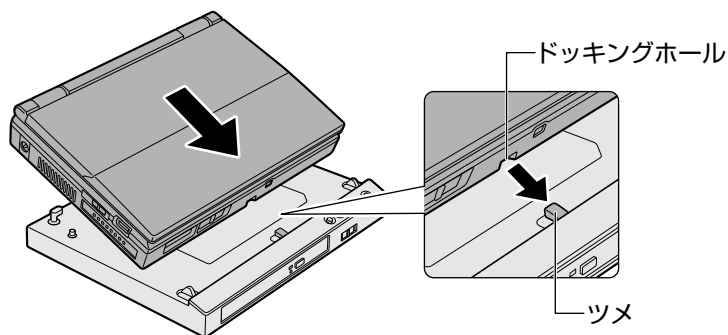
参照▶ 『さあ始めよう 5 章 1-6 持ち運ぶときは』

1 取り付け

- 1 パソコン本体のデータを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 Windowsを終了させて電源を切る
- 3 パソコン本体のACアダプタ、周辺機器、ケーブル類を取りはずす
- 4 リブレットDVDドックのロックレバーを引き出す

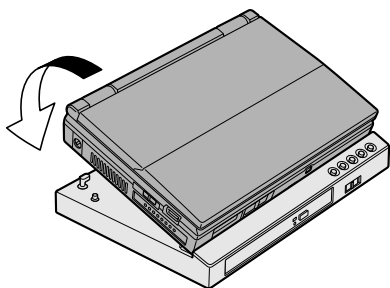


- 5 パソコン本体のドッキングホールと、リブレットDVDドックのツメをあわせる



図のように、パソコン本体を少し斜めに傾けるようにして、ツメにあわせてください。

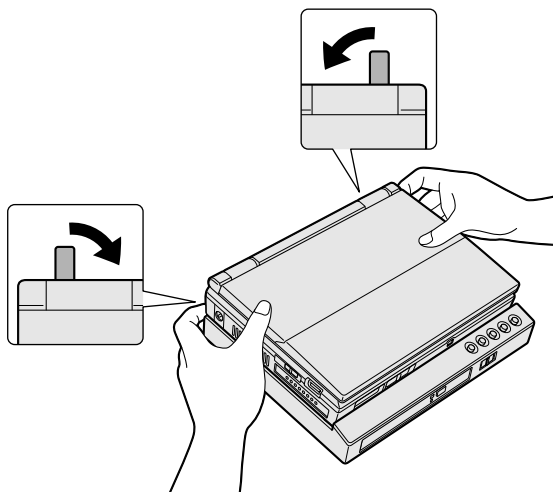
6 パソコン本体を矢印の方向にゆっくりと押し込む



リブレット DVD ドックのドッキングコネクタと、パソコン本体のドッキングポートを接続します。

参照▶ パソコン本体のドッキングポート 『さあ始めよう 2 章 1-③ 裏面図』

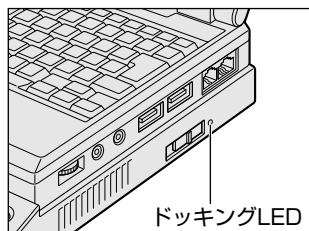
7 リブレット DVD ドックのロックレバーを、矢印の方向に閉じる



パソコン本体とリブレット DVD ドックを固定します。

リブレットDVD ドックに関する表示

パソコン本体の電源が入っている場合、リブレットDVD ドックを接続しているときは、リブレットDVD ドックのドッキングLEDが点灯します。



2 取りはずし

お願い

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失する可能性があります。
- 起動中のアプリケーションまたはクイックプレイは、終了してください。
- ドッキングLEDが点灯中は、リブレットDVD ドックを取りはずさないでください。

1 ドライブにCD／DVDをセットしている場合は、取り出す

参照▶ 「本章 2 CD／DVDのセット」

2 データを保存し、アプリケーションを終了する

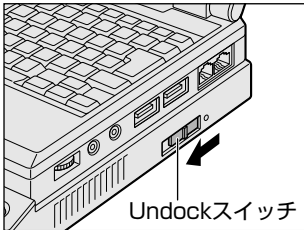
3 Windowsを終了させて電源を切る

または、クイックプレイを終了する

参照▶ クイックプレイの終了方法 「本章 4 クイックプレイ」

4 パソコン本体のACアダプタ、周辺機器、ケーブル類を取りはずす

5 ドッキングLEDが点灯している場合は、リブレットDVDドックの Undock スイッチを矢印の方向にスライドする



取りはずし可能な状態になり、ドッキングLEDが消灯します。

パソコン本体の電源を切ることで取りはずし可能な状態にすることもできます。

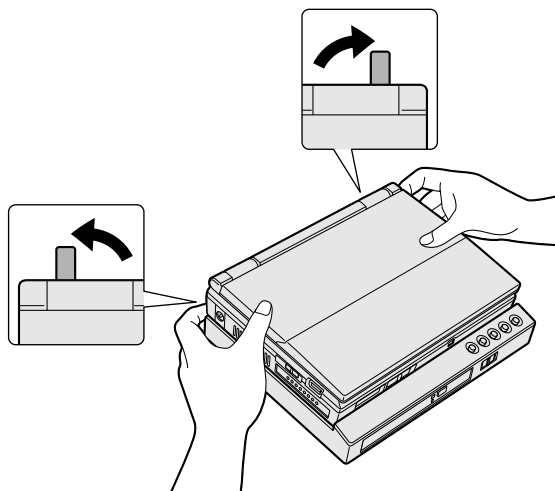
- クイックプレイが起動している場合

クイックプレイを終了せずに Undock スイッチをスライドした場合、クイックプレイを終了するかどうかの確認画面が表示されます。

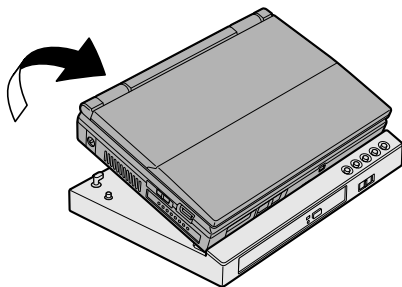


「はい」を選択すると、クイックプレイを終了します。パソコン本体の Power LED と、ドッキングLED が消灯するのを確認してから、次の手順に進んでください。

6 リブレット DVD ドックのロックレバーを引き出す



7 パソコン本体を矢印の方向に持ち上げる

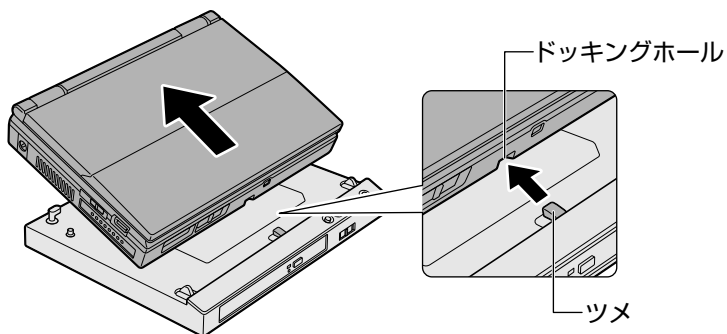


あらかじめドッキングLEDが消えていることを確認してください。ドッキングLEDが点灯している間は、行わないでください。

リブレットDVDドックのドッキングコネクタから、パソコン本体のドッキングポートを取りはずします。

リブレットDVDドックが持ち上がらないように、手で押さえながら行ってください。

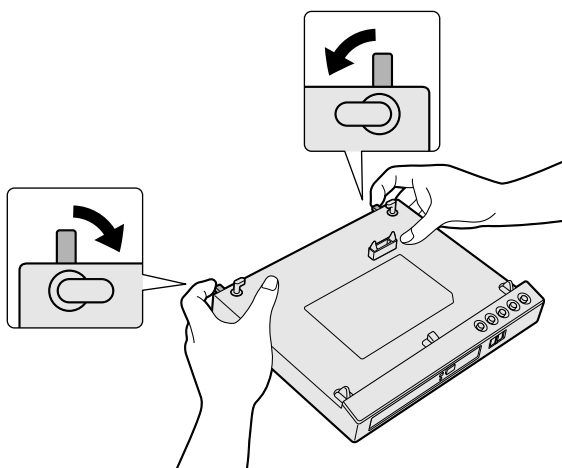
8 パソコン本体をリブレット DVD ドックから引き抜く



リブレット DVD ドックのツメから、パソコン本体のドッキングホールを分離します。

9 リブレット DVD ドックのロックレバーを閉じる

リブレット DVD ドックを取りはずした後は、ロックレバーを収納しておいてください。



2 CD / DVD のセット

本製品にリブレット DVD ドックを接続すると、CD / DVD を使用することができます。

CD / DVD のセットと取り出しについて説明します。

CD / DVD は、パソコン本体に接続したリブレット DVD ドックのドライブにセットして使用します。

参照 ▶ ドライブについて「本章 5 ドライブ」

同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。操作を始める前にその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い 操作にあたって

- リブレット DVD ドックを接続して CD / DVD を使用するときは、必ず机の上などの平らでしっかりした台の上に置いて使用してください。不安定な場所に置いて使用したり、動作中に強い振動を与えると、CD / DVD が傷ついたり、ドライブが故障するおそれがあります。
- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ディスクトレイ LED が点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD / DVD を取り出す操作をしないでください。CD / DVD が傷ついたり、ドライブが故障するおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中の CD / DVD のデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 ▶ イジェクトホールについて「本節 ② CD / DVD の取り出し」

- ドライブのトレイを開けたときに、CD / DVD が回転している場合には、停止するまで CD / DVD に手を触れないでください。ケガのおそれがあります。
- リブレット DVD ドックを持ち運ぶときは、ドライブに CD / DVD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD / DVD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD / DVD を正しくディスクトレイにセットしないと CD / DVD を傷つけることがあります。

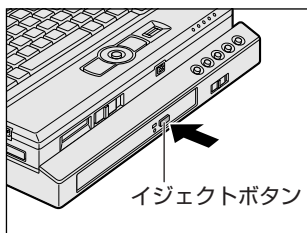
チェック

- 傷ついたり汚れのひどいCD / DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD / DVDの特性やCD / DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。

1) CD / DVD のセット

1 パソコン本体の電源を入れる

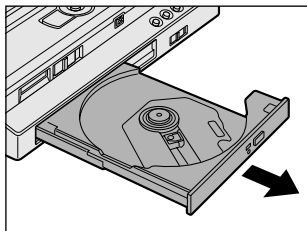
2 イジェクトボタンを押す



イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

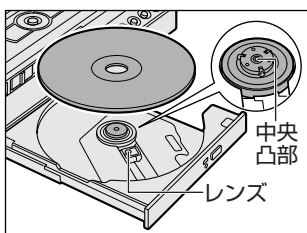
※ 搭載されているドライブによってイジェクトボタンの位置は異なります。

3 ディスクトレイを引き出す



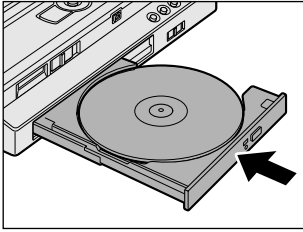
CD / DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD / DVD の穴の部分ディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする



「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



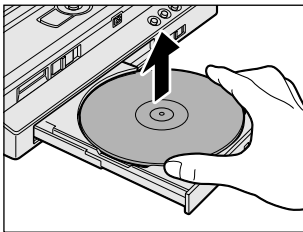
2) CD / DVD の取り出し

- 1 パソコン本体の電源が入っているか確認する
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

- 2 イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し出てきます。

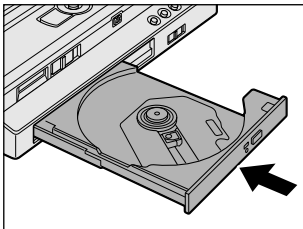
- 3 ディスクトレイを引き出す
CD / DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

- 4 CD / DVD の両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す



CD / DVD を取り出しにくいときは、中央凸部を少し押ししてください。簡単に取り出せるようになります。

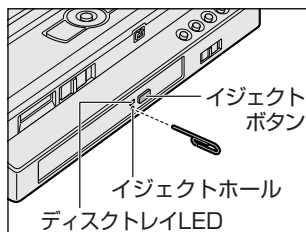
- 5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



【 ディスクトレイが出てこない場合 】

電源を切っているときは、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押した後すぐにディスクトレイは出てきません。ディスクトレイ LED の点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係の LED が点灯しているとき



※ 搭載されているドライブによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイ LED の位置は異なります。

役立つ
操作集

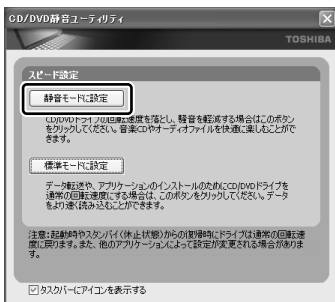
ドライブの動作音を小さくする

リブレット DVD ドックを接続して音楽CDを楽しんでいるとき、ドライブの動作音が気になるときは、「CD/DVD 静音ユーティリティ」を使います。ドライブの回転速度を抑え、動作音を小さくします。




① 通知領域の [CD/DVD 静音ユーティリティ] アイコンをダブルクリックする



② [静音モードに設定] ボタンをクリックする

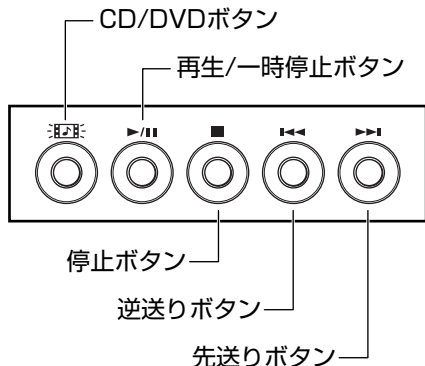


画面が閉じて、静音モードに設定されます。これでドライブの動作音が小さくなります。

- [タスクバーにアイコンを表示する]のチェックをはずすと、通知領域のアイコン () が消えます。
この場合、「CD/DVD 静音ユーティリティ」を起動するには、[コントロールパネル] → [パフォーマンスとメンテナンス] → [ CD/DVD 静音ユーティリティ] をクリックします。
通知領域にアイコン () をもう 1 度表示するには、[タスクバーにアイコンを表示する] をチェックしてください。
- 音楽CDを聴き終わった後は、「標準モード」に設定し直してください。「静音モード」に設定しているとCDの読み出し速度が遅くなるため、「標準モード」よりもCDの読み出しに時間がかかります。
- 「静音モード」に設定しても、次のような場合は、「標準モード」に切り替わります。
 - ・システムを再起動したとき
 - ・スタンバイ、休止状態から復帰したとき
 - ・「RecordNow!」でCDの書き込み／編集を行うとき
 - ・CD速度を設定するアプリケーションを使用したとき

3 フロントオペレーションパネル

リブレット DVD ドックには、フロントオペレーションパネルが用意されています。パソコンで DVD-Video を見たり音楽を聴いたりするとき、フロントオペレーションパネルを使用すると簡単に操作することができます。



それぞれのボタンの機能は、次のようになっています。

【 CD/DVD ボタン 】

パソコン本体に電源が入っていない、または休止状態の場合は、「クイックプレイ」の次の機能を起動します。

ドライブに CD がセットされている場合 : クイックプレイ (CD)

ドライブに DVD がセットされている場合 : クイックプレイ (DVD)

ドライブに何もセットされていない場合 : クイックプレイが起動し、メディアのセットをうながすメッセージが表示されます。

参照 → 「クイックプレイ」について「本章 4 クイックプレイ」

Windows が起動中またはスタンバイの場合は、音楽や映像を再生するアプリケーションを起動します。

ドライブに DVD がセットされている場合 : WinDVD

ドライブに DVD 以外がセットされている、

または何もセットされていない場合 : Windows Media Player

【 再生 / 一時停止ボタン 】

音楽や映像を再生するアプリケーションを起動します。

ドライブに DVD がセットされている場合 : WinDVD

ドライブに DVD 以外がセットされている、

または何もセットされていない場合 : Windows Media Player

すでに再生するアプリケーションが起動している場合には、一時停止または一時停止を解除します。

【停止ボタン】

そのとき操作しているアプリケーションを、停止します。いくつもアプリケーションを起動している場合、ドライブにセットされているメディアに対応したアプリケーションにのみ有効です。このボタンは、「Windows Media Player」「WinDVD」「クイックプレイ (CD)」「クイックプレイ (DVD)」に対して、操作可能です。

【逆送りボタン】

そのとき再生している音楽や映像のトラック／チャプタを1つ前またはトラック／チャプタの先頭に戻します。

このボタンは、「Windows Media Player」「WinDVD」「クイックプレイ (CD)」「クイックプレイ (DVD)」に対して、操作可能です。

【先送りボタン】

そのとき再生している音楽や映像のトラック／チャプタを1つ進めます。

このボタンは、「Windows Media Player」「WinDVD」「クイックプレイ (CD)」「クイックプレイ (DVD)」に対して、操作可能です。

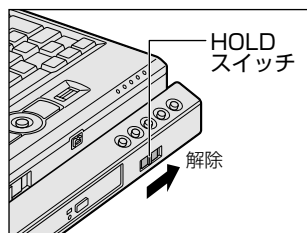
ボタン機能を無効／有効にするには

お願い

- パソコン本体にリブレット DVD ドックを取り付けた状態で持ち運ぶときは、誤って電源が入らないように、フロントオペレーションパネルのボタン機能を無効にしてください。

HOLD スイッチを左側 (←HOLD) にスライドすると、フロントオペレーションパネルのボタンを無効にすることができます。

HOLD スイッチを解除する (フロントオペレーションパネルのボタンを有効にする) には、HOLD スイッチを右側にスライドしてください。



4 クイックプレイ


本製品には、CD / DVD 再生のために「クイックプレイ」が用意されています。ここでは、クイックプレイについて説明します。

お願い

クイックプレイは、リブレット DVD ドックでのみ使用することができます。別売りまたは市販の CD / DVD ドライブでは使用できません。

【表記について】

本節でクイックプレイの操作を説明する上で、次の記号を使用します。

 キーボード：パソコン本体のキーボードからの操作を示します。

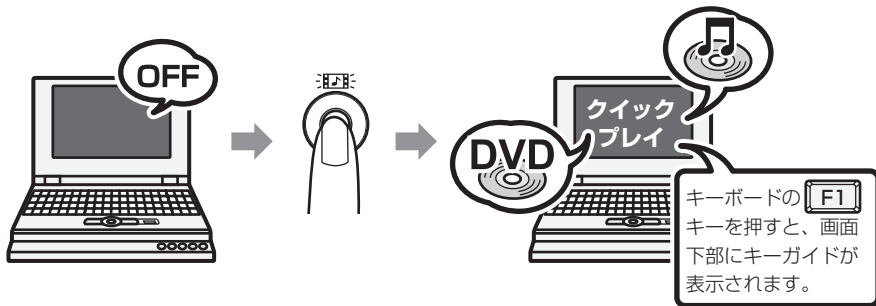
1 クイックプレイとは

クイックプレイには、次の2つの機能があります。

- 音楽 CD を再生する 「クイックプレイ (CD)」
- DVD を再生する 「クイックプレイ (DVD)」

これらを、「パソコンに電源を入れる」→「CD / DVD 再生のアプリケーションを起動する」といった操作をすることなく、フロントオペレーションパネルのボタンを押すだけで、簡単に行えます。

操作は、フロントオペレーションパネルとキーボードで行います。



① パソコンが次のとき
・電源オフ
・休止状態

② [CD/DVD]
ボタンを押す

③ パソコンの電源が入り、
「クイックプレイ」が起動

【クイックプレイの使用にあたって】

クイックプレイは、次の状態のときに起動できます。

- ・電源が入っていないとき
- ・休止状態のとき

Windowsは、クイックプレイを終了してからのみ、起動できます。Windows起動中は、クイックプレイは使用できません。

参照 → クイックプレイの起動と終了

「本節 ③ クイックプレイ (CD)」

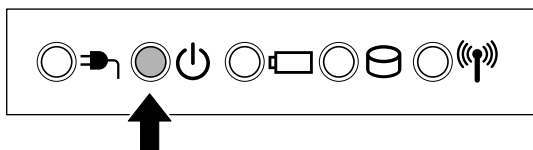
「本節 ④ クイックプレイ (DVD)」

メモ

- ・クイックプレイを使用中に、フロントオペレーションパネルやキーボードからの操作が効かなくなったときには、パソコン本体の電源スイッチを5秒以上押しして強制終了し、起動し直してください。

クイックプレイに関する表示

クイックプレイ使用中は、Power LEDが緑色に点灯します。



ドルビーデジタルオーディオ符号化システムについて

「クイックプレイ」は、ドルビーデジタルオーディオ符号化システムを使用しています。ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

非公開機密著作物。著作権 1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

SRS WOW XT 技術について

クイックプレイには、SRS社のSRS WOW XT (エスアールエス・ワウ・エックスティ) 技術を使用して、サウンドの音質を調整できる機能があります。

クイックプレイ領域について

ご購入時の状態では、クイックプレイ領域として、ハードディスクドライブのうち約200MBを使用しています。

2) クイックプレイの操作一覧

クイックプレイの操作は、キーボード/フロントオペレーションパネルから実行できます。操作は、次の表を参照してください。フロントオペレーションパネルからの操作については、「本章 3 フロントオペレーションパネル」もあわせてご覧ください。

フロントオペレーションパネル	パソコン本体	CD機能	DVD機能
	電源スイッチ	CD終了	DVD終了
CD/DVD 		CD起動	DVD起動
	FN + F7	画面の輝度を上げる	画面の輝度を上げる
	FN + F6	画面の輝度を下げる	画面の輝度を下げる
	1	1曲目を選択	1番目のチャプタを選択
	2	2曲目を選択	2番目のチャプタを選択
	3	3曲目を選択	3番目のチャプタを選択
	4	4曲目を選択	4番目のチャプタを選択
	5	5曲目を選択	5番目のチャプタを選択
	6	6曲目を選択	6番目のチャプタを選択
	7	7曲目を選択	7番目のチャプタを選択
	8	8曲目を選択	8番目のチャプタを選択
	9	9曲目を選択	9番目のチャプタを選択
	0	2桁の曲番号選択時、 ゼロ	2桁のチャプタ番号選択時、 ゼロ
	F8またはF9*1		メニュー表示
	↑		設定項目移動
	←		設定項目移動
	→		設定項目移動
	↓		設定項目移動

フロント オペレーション パネル	パソコン本体	CD機能	DVD機能
	ENTER	曲選択決定	決定または設定完了
	F2		設定メニュー表示/ 非表示
	ESC		メニュー取り消し/ 戻る/リターン*2
	CTRL + ↑	音量上げる	音量上げる
	CTRL + ↓	音量下げる	音量下げる
	M	消音*3	消音*3
	CTRL + K		約10秒前に戻す
	CTRL + L		約30秒後にスキップ
	< または 0	約10秒前に戻す	早戻し*4
再生/一時停止 ▶/	SPACE	再生/一時停止*5	再生/一時停止*5
	> または P	約10秒後にスキップ	早送り*4
逆送り ◀◀	K	前の曲*6	ひとつ前のチャプタ/ チャプタの先頭*7
停止 ■	CTRL + SPACE	停止	停止
先送り ▶▶	L	次の曲	次のチャプタ
	D	表示切替*8	表示切替*9
	G		アングル切替
	S		字幕切替
	A		音声切替
	CTRL + R	1曲リピート/ Discリピート	
	CTRL + S	シャッフル再生	
	T		タイトル選択
	Y		スロー再生*10
	W	SRSモード切替*11	
	F1	キーガイド表示	キーガイド表示
	E	ディスクを取り出す	ディスクを取り出す

- * 1 (F8)キーを押すとトップメニュー、(F9)キーを押すとメニューが表示されます。DVDには構造によってさまざまなメニューが用意されています。この操作をしたときに表示されるメニューは、DVDによって異なります。
- * 2 リターン：DVDで指定された画面に戻ります。再生するDVDに付属の説明書もあわせてご覧ください。
- * 3 1回押すと消音し、もう1回押すと消音する前の音量レベルに戻ります。消音中に音量を調整すると消音は解除され、消音前の音量レベルから調整されます。
- * 4 同じ操作を続けて行くと、速度が変わります。例えば早送り再生中に(◀)キーまたは(○)キーを続けて押すと、1回押すたびに早送りの速度が変わります。通常再生に戻すには、[再生/一時停止] ボタンまたはキーボードの(SPACE)キーを押します。
- * 5 1回押すごとに再生/一時停止が切り替わります。
- * 6 曲の再生が始まって2秒以上たってから押すと、再生中の曲の先頭から再生します。
- * 7 続けて2回押すと、1つ前のチャプタの先頭から再生します。
- * 8 音楽CDを聴いているとき、表示モードを次のいずれかに切り替えることができます。
 - ・現在再生している曲の再生時間/現在再生している1曲の演奏時間(標準値)
 - ・ディスクの先頭からの再生時間/ディスク全体の演奏時間
- * 9 1回押すと現在の状態、タイトル番号、チャプタ番号、時間を表示し、もう1回押すと非表示になります。再生しているシーンによって、表示される項目は異なります。
- * 10 再生中にキーボードの(Y)キーを続けて押すと、1回押すたびに再生速度が変わります。通常再生に戻すには、[再生/一時停止] ボタンまたはキーボードの(SPACE)キーを押します。
- * 11 1回押すごとに、内蔵スピーカ/外付けスピーカ/開放型ヘッドフォン/密閉型ヘッドフォン/SRS OFFが切り替わります。

メモ

- 操作の一覧の中で、キーを「+」でつないで記載されているときは、前のキーを押したまま離さずに次のキーを押してください。
 - ・例：(FN)+(F7)
 - この場合は、(FN)キーを押したまま(F7)キーを押します。
- CD/DVDの再生で、再生したい曲またはチャプタの番号を選択したい場合に、曲の番号が1桁のときは、次のいずれかを実行してください。
 - ・再生したい曲またはチャプタの番号を入力し、キーボードの(ENTER)キーを押す
 - ・再生したい曲またはチャプタの番号を入力し、2秒待つ
 再生したい曲またはチャプタの番号が2桁の場合は、その番号を入力するとそのまま再生されます。

3) クイックプレイ (CD)

お願い クイックプレイ (CD) の使用にあたって

- 汚れや傷のあるCDは、再生できない場合があります。また汚れや傷がひどいと、CDを取り出せなくなる場合もあります。イジェクトホールを使用してCDを取り出してください。

参照▶ イジェクトホール 「本章 2-② CD / DVD の取り出し」

1 起動方法

1 [CD/DVD] ボタンを押す



パソコンの電源が入り、クイックプレイが起動します。
メディアのセットをうながすメッセージが表示されます。
メディアがドライブにセットされている状態でこの操作を実行すると、自動的に再生が始まります。

2 ドライブに音楽CDをセットする

参照▶ CDのセット 「本章 2-① CD / DVD のセット」

音楽CDの再生が始まります。
音楽CDの再生が開始されるまで、少し時間がかかる場合があります。

2 停止／終了方法

音楽CDの再生を停止する場合は、次のように操作します。

- 1 **【停止】 ボタン、またはキーボードの(CTRL)+(SPACE)キーを押す**
(E)キーを押すとドライブからディスクトレイが出てきて、CDを取り出せます。

➡ **参照** CDの取り出し 「本章 2-2 CD / DVDの取り出し」

続けて、クイックプレイ (DVD) に切り替えるには、ドライブにDVDをセットしてください。

クイックプレイ (CD) を終了する場合は、次のように操作します。

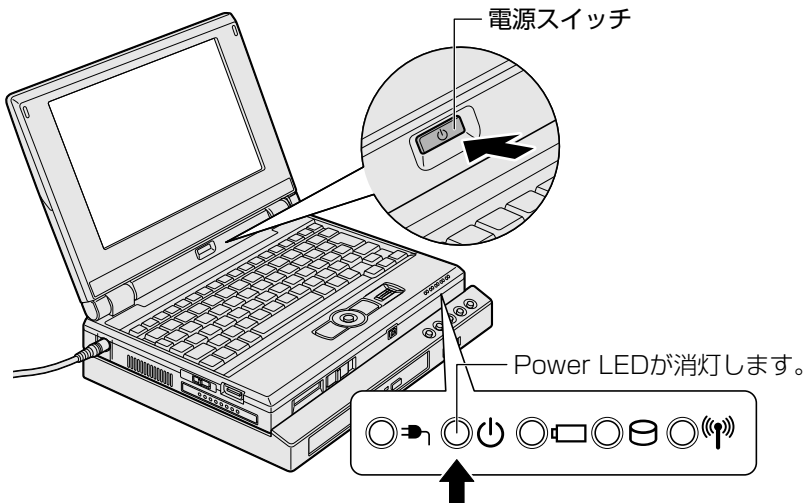
お願い

クイックプレイは、必ず、パソコン本体の電源スイッチを押して終了してください。

Windows起動中には、ディスプレイを閉じることによって休止状態またはスタンバイにする機能がありますが、クイックプレイ起動中には対応していません。

1 パソコン本体の電源スイッチを押す

電源スイッチを強く押し過ぎると、破損や故障の原因となります。無理な力が加わらないように電源スイッチは軽く押してください。



クイックプレイを起動する前の状態が、電源オフだった場合は電源オフに、休止状態だった場合は休止状態になります。

3 操作方法

ここでは、「本節 ② クイックプレイの操作一覧」で紹介した、CD 機能に関する操作の補足や、その他の機能について説明します。

【再生モードの変更】

音楽 CD を聴くとき、次の中から再生モードを選択できます。

再生モード	切り替えキー	内容
通常再生	—	CD の 1 曲目から順番に最後の曲まで再生する
1 曲リピート*1	(CTRL)+(R)	現在選択されている曲を、繰り返し再生する
Disc リピート*1	(CTRL)+(R)	CD の 1 曲目から順番に最後の曲まで再生した後、また 1 曲目から繰り返し再生する
シャッフル再生*2	(CTRL)+(S)	CD に収録されている通りではなく、曲の順番を入れ替えて再生する

* 1 (CTRL)+(R) を 1 回押すごとに、次のように切り替わります。

通常再生 (標準値) → 1 曲リピート → Disc リピート → 通常再生…

* 2 (CTRL)+(S) を 1 回押すごとに、曲の順番を入れ替えて再生する / しないが切り替わります。

4 クイックプレイ (DVD)

お願い クイックプレイ (DVD) の使用にあたって

- DVD は、制作者側の意図により再生状態が決められていることがあります。クイックプレイ (DVD) はディスク制作者が意図した内容に従って再生をするため、操作した通りに動作しないことがあります。
- 操作中に「ⓧ」が画面に表示されることがあります。「ⓧ」が表示されたときは、クイックプレイ (DVD) または DVD-Video がその操作を禁止しています。
- 再生する DVD に付属の説明書もあわせてお読みください。
- DVD の再生は Region コードが「2」、「ALL」のものをご使用ください。
- 再生する DVD のタイトルによっては、コマ落ちまたは音飛びする場合があります。
- 本体液晶ディスプレイでのみ再生できます。外部映像出力はサポートしていません。
- パレンタルコントロールが設定された DVD タイトルでは、DVD-Video であらかじめ設定されているシーンが再生されます。パレンタルコントロールのレベル設定はサポートしていません。
- Video CD、DVD-Audio、-VR フォーマットまたは +VR フォーマットで保存されたデータの再生はサポートしていません。また、ファイナライズされていないメディア、MPEG や DivX、「ミニ DVD」形式などのファイル再生もサポートしていません。
- ClosedCaption の表示は行いません。
- 音声は必ず 2ch で出力されます。
- DTS、SDDS の音声を含むタイトルの場合、それらの音声を選択した場合には、音声は出力されません。
- カラオケモードには対応していません。
- 連続して操作をする場合は、直前の動作が完了してから次の操作をしてください。動作が完了する前に次の操作をすると、目的の動作をしない場合があります。
- 汚れや傷のある DVD は、再生できない場合があります。また汚れや傷がひどいと、DVD を取り出せなくなる場合もあります。イジェクトホールを使用して DVD を取り出してください。

参照▶ イジェクトホール

「本章 2-2 CD / DVD の取り出し」

1 起動方法

1 [CD/DVD] ボタンを押す



パソコンの電源が入り、クイックプレイが起動します。
メディアのセットをうながすメッセージが表示されます。
メディアがドライブにセットされている状態でこの操作を実行すると、自動的に再生が始まります。

2 ドライブにDVDをセットする

▶ 参照 DVDのセット
「本章 2-① CD/DVDのセット」

DVD-Videoの再生が始まります。
DVD-Videoの再生が開始されるまで、少し時間がかかる場合があります。

2 停止/終了方法

DVDの再生を停止する場合は、次のように操作します。

1 【停止】ボタン、またはキーボードの(CTRL)+(SPACE)キーを押す

続き再生が可能な状態にしておけば、再生を停止した箇所からその続きを再生できます。

▶ 参照 続き再生について「本項 4- 続き再生」

(E)キーを押すとドライブからディスクトレイが出てきて、DVDを取り出せます。

▶ 参照 DVDの取り出し
「本章 2-② CD / DVDの取り出し」

続けて、クイックプレイ (CD) に切り替えるには、ドライブに音楽CDをセットしてください。

クイックプレイ（DVD）を終了する場合は、次のように操作します。

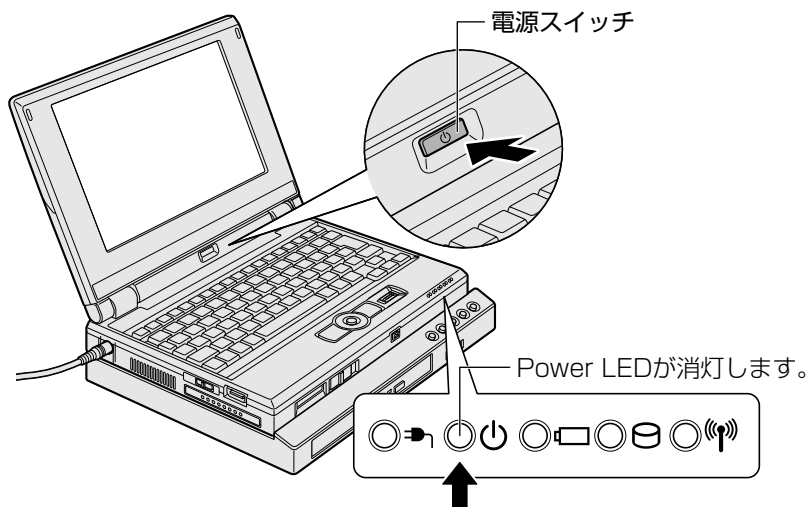
お願い

クイックプレイは、必ず、パソコン本体の電源スイッチを押して終了してください。

Windows起動中には、ディスプレイを閉じることによって休止状態またはスタンバイにする機能がありますが、クイックプレイ起動中には対応していません。

1 パソコン本体の電源スイッチを押す

電源スイッチを強く押し過ぎると、破損や故障の原因となります。無理な力が加わらないように電源スイッチは軽く押ししてください。



クイックプレイを起動する前の状態が、電源オフだった場合は電源オフに、休止状態だった場合は休止状態になります。

3 DVD設定

DVD 設定メニューでは、DVD を再生するうえでのさまざまな設定をすることができます。

DVD 設定メニューを起動するには、次のように操作してください。

1 (F2)キーを押す

DVD の設定メニュー画面が表示されます。



画面下部のキー操作表示を参照して、設定したい項目を選択してください。

DVD 設定メニューを終了してDVD再生に戻るには、(F2)キーを押してください。設定できる項目は、次のようになっています。

表示設定

クイックプレイ (DVD) で DVD を再生する場合の画面表示について、次の設定ができます。

【表示モード】

本製品では対応していません。

【アンブルアイコン】

マルチアングルを示すアイコンを、画面に表示するかどうかを設定します。アイコンを表示するように設定しておくと、マルチアングルが用意されているシーンを再生しているときに、アングルの切り替えができる場合は、画面にアイコンが表示されます。
表示 ON : アイコンを表示する
表示 OFF : アイコンを表示しない

言語設定

* DVD 再生中は、DVD 設定メニュー画面からの設定はできません。再生を停止してから設定してください。

クイックプレイ（DVD）で DVD を再生する場合の言語について、設定できます。本機能はクイックプレイ（DVD）の初期設定です。再生する DVD にあらかじめ音声、字幕、ディスクメニュー言語が設定されている場合は、その設定が優先されます。言語コードの入力画面では、「付録 2 言語コード一覧」を参照して、設定したい言語の言語コードを入力してください。

タイトルに設定した言語が含まれていない場合には、タイトルが指定する言語が使用されます。また、タイトルによっては、使用する言語を変更するものがあり、ここで設定された言語が使用されないことがあります。

【音声言語】

複数の言語の音声を用意されている DVD を再生する際の、音声言語を設定します。どのような言語が用意されているかは、再生する DVD によって異なります。

日本語：日本語の音声を再生する

その他：設定したい言語の言語コードを入力する

日本語以外の言語を設定したい場合を選択してください。

【字幕言語】

複数の言語の字幕が用意されている DVD を再生する際の、字幕言語を設定します。どのような言語が用意されているかは、再生する DVD によって異なります。

日本語：日本語の字幕を表示する

その他：設定したい言語の言語コードを入力する

日本語以外の言語を字幕表示させたい場合を選択してください。

字幕なし：字幕を表示しない

【ディスクメニュー言語】

複数の言語のディスクメニューが用意されている DVD を再生する際の、メニュー言語を設定します。どのような言語が用意されているかは、再生する DVD によって異なります。

日本語：日本語のメニューを表示する

その他：設定したい言語の言語コードを入力する

日本語以外の言語を設定したい場合を選択してください。

画質設定

DVD再生時の画質について設定します。

【映像設定】

映像のタイプを設定します。

「標準」、「お好み」のいずれかを設定できます。

「お好み」を選択すると、明るさ、色合い、コントラスト、濃さを好みに合わせて調整できます。

【シャープネス】

映像の境界を強調し、くっきりした映像にします。

「ON」、「OFF」のいずれかを設定できます。

音質設定

SRS社のSRS WOW XT（エスアールエス・ワウ・エックスティ）技術を使用して、音楽や音声を聴く環境にあわせて、サウンドの音質を調整します。

【サラウンド設定】

音楽や音声を聴く環境ごとに適した音質に設定したモードが用意されています。お好みに合わせて選択してください。

[DVD設定メニュー] 画面で、[音質設定] → [サラウンド設定] を選択してください。メニューが表示され、「内蔵スピーカー」、「外部接続スピーカー」、「開放型ヘッドフォン」、「密閉型ヘッドフォン」、「OFF」のいずれかを設定できます。

【サラウンド詳細設定】

[サラウンド設定] で選択したモードの音質を、更に詳しく調節します。

[DVD設定メニュー] 画面で、[音質設定] → [サラウンド詳細設定] を選択してください。

メニューが表示され、次の設定を調節できます。

- SRS レベル : 音のステレオ感（広がり）を調節する
- Focus レベル : 音のクリア感を調節する
- スピーカーサイズ : 音の低音感を調節する
スピーカーサイズとは、スピーカやヘッドフォンがどのぐらいの低音を再生できるかを表した数値です。
- TruBass レベル : 音の低音感を調節する
スピーカーサイズに応じた低音レベルを調節します。
- 初期設定に戻す : [サラウンド詳細設定] の設定を標準値に戻す

各種設定

【省電力モード】

バッテリー駆動時のDVD再生時間を長くするために、省電力機能を使用するかどうかを設定します。

「ON」、「OFF」のいずれかを設定できます。

メモ

- [省電力モード] の設定は、クイックプレイ (DVD) のみに有効です。
- [省電力モード] を「ON」に設定した場合、バッテリー駆動時には、一部の高画質化処理が行われません。

【ブザー設定】

クイックプレイを操作したときに、ビープ音を鳴らすかどうかを設定します。

「ON」、「OFF」のいずれかを設定できます。

4 DVDの再生

ここでは、「本節 ② クイックプレイの操作一覧」で紹介した、DVDの再生操作以外の、再生に関する操作を説明します。

【DVDメニュー選択】

DVDのメニューを表示し、再生したいタイトルやチャプタを選択するには、次のように操作してください。

 DVDメニューの表示方法 「本節 ② クイックプレイの操作一覧」

キーボード

矢印キーで選択し、(ENTER)キーで再生を開始する

DVDには構造によってさまざまなメニューが用意されています。この操作をしたときに表示されるメニューは、DVDによって異なります。

【 続き再生 】

前回再生を停止した場面から、その続きを再生できます。画面に「[再生] を押すと、続き再生」と表示されている状態で、次のように操作してください。

 キーボード

(SPACE)キーを押す

次のような場合は、続き再生できません。

- ・電源を切った
- ・前回再生停止した後、設定メニューから設定を変更した
- ・DVDをドライブから取り出した
- ・再生しているDVDが、続き再生機能に対応していない

など

【 再生するタイトルの選択 】

再生するタイトルを選択するには、次のように操作してください。

 キーボード

(T)キーを押した後、再生したいタイトル番号の数字キーを押す

停止中に(T)キーを押した場合は、タイトル番号を入力した後、(ENTER)キーを押します。

再生するDVDによっては、本機能は動作しない場合があります。

【 再生アングルの選択 】

DVDによっては、複数のカメラアングル（角度）からの映像が用意されています。このアングルを切り替えて再生するには、DVD再生中に次のように操作してください。

 キーボード

(G)キーを押す

現在のアングル番号が表示されます。アングル番号が表示されているときにこの操作をすると、1回押すごとに、DVDに用意されているアングルが切り替わります。アングル番号は、操作してから数秒たつと消えます。

メモ

- DVDによっては、アングルを切り替えてもすぐに映像が切り替わらない場合があります。
- 早送りまたは早戻し中は、アングルを切り替えることができません。

【字幕の選択】

DVDによっては字幕が用意されていて、再生画面に表示できます。複数の言語で字幕が用意されているDVDの場合は、表示したい字幕を選択できます。

DVD再生中に次のように操作してください。

 キーボード

Ⓢキーを押す

画面に現在の字幕情報が表示されます。1回押すごとに、DVDに用意されている字幕が切り替わります。字幕なしにすることもできます。

メモ

- DVDによっては、自動的に字幕が表示されます。
- 再生している場面によっては、字幕表示の操作をしてもすぐには字幕が表示されないことがあります。
- DVDによっては、字幕の言語や表示／非表示の切り替えを、ディスクメニューで選択できます。

【音声を切り替える】

DVDによっては、複数の音声（吹き替え）が用意されています。音声を切り替えるには、DVD再生中に次のように操作してください。

 キーボード

Ⓐキーを押す

画面に現在の音声情報が表示されます。1回押すごとに、DVDに用意されている音声が切り替わります。

メモ

- DVDによっては、音声の言語の切り替えを、ディスクメニューで選択できます。

5 クイックプレイの再インストール

クイックプレイは、購入時の状態では本製品にプレインストールされています。クイックプレイを削除してしまった場合の復元方法と、アップデートや削除の方法について説明します。

メモ

- クイックプレイの再インストールを行うと、各種設定値が初期状態に戻ります。

【必要なもの】

- クイックプレイのリカバリ CD *1
- 『応用にチャレンジ』（本書）、『困ったときは』

*1 クイックプレイのリカバリ CD は、あらかじめ作成しておく必要があります。

参照▶ 作成方法 『困ったときは 2章 4 システム復元ツールのバックアップをとる』

クイックプレイをアップデートする場合は、次の2つの方法があります。

- ① Windows からのアップデート
- ② クイックプレイのリカバリ CD を使用したアップデート

Windows からアップデートする場合は、プログラムをホームページからダウンロードする必要があります。詳細は弊社ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」→「ダウンロード」をご覧ください。

URL : http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm

参照▶ 『困ったときは 1章 1-4 本製品のサポート情報を見る』

クイックプレイのリカバリ CD を使ってアップデートする場合は、プログラムをホームページからダウンロードし、あらかじめアップデート CD を作成する必要があります。詳細は弊社ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」→「ダウンロード」をご覧ください。

URL : http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm

参照▶ 『困ったときは 1章 1-4 本製品のサポート情報を見る』

1 操作手順

お願い

- クイックプレイの再インストールは、リブレット DVD ドックでのみ行うことができます。
- 別売りまたは市販の CD / DVD ドライブでは再インストールすることはできません。

1 AC アダプタと電源コードを接続し、クイックプレイのリカバリ CD をセットして、パソコンの電源を切る

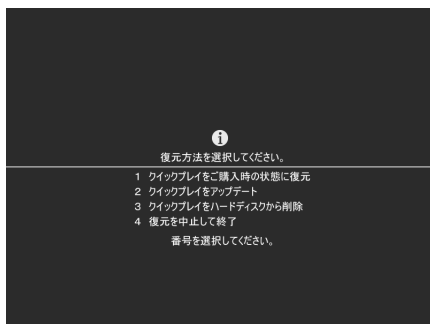
参照 → CD のセット 「本章 2-① CD / DVD のセット」

2 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

3 (→)または(←)キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、(ENTER)キーを押す

[クイックプレイの復元を開始します。] 画面が表示されます。

そのまま待つと、「復元方法を選択してください。」というメッセージが表示されます。



4 購入時の状態に復元する場合は①キーを、クイックプレイをアップデートする場合は②キーを、クイックプレイを削除する場合は③キーを押す

④キーを押すと、何もしないで終了します。

【 ①キーを押した場合 】

復元中のメッセージが表示されます。



しばらく待つと、終了のメッセージが表示されます。



何かキーを押して終了してください。

- エラーメッセージが表示された場合
「本項 1- エラーメッセージ」を参照してください。

【②キーを押した場合】

アップデートCDの挿入をうながすメッセージが表示されます。



ドライブにアップデートCDをセットし、(ENTER)キーを押してください。しばらく待つと、アップデート終了のメッセージが表示されます。



何かキーを押して終了してください。

- **クイックプレイがインストールされていない場合**
クイックプレイがインストールされていないと、アップデートはできません。削除してしまった場合は、アップデートしようとする時「クイックプレイがインストールされていません。」というメッセージが表示されます。先にクイックプレイを購入時の状態に復元してから、アップデートしてください。
- **違うCDをセットした場合**
正しいアップデートCDではないCDをセットすると、「不明なCDです。」というメッセージが表示されます。正しいCDをセットして、(Y)キーを押してください。(N)キーを押すと、アップデートを中止して終了します。
- **エラーメッセージが表示された場合**
「本項 1- エラーメッセージ」を参照してください。

【 ③キーを押した場合 】

削除の確認メッセージが表示されます。



〔Y〕キーを押してしばらく待つと、削除終了のメッセージが表示されます。



何かキーを押して終了してください。

- エラーメッセージが表示された場合
「本項 1- エラーメッセージ」を参照してください。

【エラーメッセージ】

操作中に次のようなメッセージが表示された場合は、右側に記載している対処方法を実行してください。

メッセージ	対処方法
クイックプレイの復元中にエラーが発生しました。	何かキーを押して終了し、クイックプレイの復元を最初からやり直してください。
クイックプレイのアップデート中にエラーが発生しました。	何かキーを押して終了し、クイックプレイのアップデートを最初からやり直してください。
クイックプレイの削除中にエラーが発生しました。	何かキーを押して終了し、クイックプレイの削除を最初からやり直してください。
ハードディスクの空き領域が不足しています。ハードディスクの終端に使用されていない200MB以上の空き領域を準備して、もう一度復元をやり直してください。	ハードディスクの終端に使用されていない200MB以上の未割り当て領域がないと、クイックプレイの復元はできません。何かキーを押して終了し、Windowsの「ディスクの管理」を使って不要なパーティションを削除し、ハードディスクに未割り当て領域を確保してから復元をやり直してください。
この機種はサポートしていません。	使用しているパソコンは、クイックプレイに対応していません。クイックプレイの復元はできません。

5 ドライブ

リブレット DVD ドックには、DVD スーパーマルチドライブが 1 台内蔵されています。ドライブには次のマークが入っています。



* マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROM の読み出し機能を搭載したドライブです。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するとき守ってほしいことが記述されています。CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- DVD-Video の再生は Region ^{リージョン} コード「2」、「ALL」のものをご使用ください。

1 使用できるメディアと対応するアプリケーション

お願い

書き込み中は、シャットダウン、ログオフ、スタンバイなどを実行しないでください。

書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。

- RecordNow! Basic for TOSHIBA
ここでは「Record Now!」とよびます。

▶ 参照 『困ったときは 2 章 3 CD / DVD にデータのバックアップをとる』

- DLA for TOSHIBA
ここでは「DLA」とよびます。

▶ 参照 『困ったときは 2 章 3 CD / DVD にデータのバックアップをとる』

メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

使用できるメディア

○：使用できる ×：使用できない

	CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
読み出し	○*1	○*1	○*1	○*1	○*1	○*1	○*1
書き込み回数	1回	繰り返し 書換可能*2	1回	繰り返し 書換可能*2	1回	繰り返し 書換可能*2	繰り返し 書換可能*2

*1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

*2 実際に書き換える回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。

アプリケーションと書き込み可能なメディア

○：使用できる ×：使用できない

【RecordNow!】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○*1	○*1	○*1	○*1	×

*1 DVD-Video、DVD-Audioの作成はできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。

【DLA】

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
×	○*1	×	○*1	×	○*1	×

*1 新品のCD-RW、DVD-RW、DVD+RWを「DLA」で使用するためには、あらかじめフォーマットが必要です。

【【マイコンピュータ】上で書き込む場合】

【マイコンピュータ】で目的のファイルやフォルダをドライブにコピーすると、パソコンで作成した文書データなどのファイルをメディアに書き込むことができます。*1
書き込み可能なメディアは、CD-RW、DVD-RW、DVD+RW、DVD-RAMです。
なお、これらのメディアはあらかじめフォーマットしておく必要があります。

*1 CD-RW、DVD-RW、DVD+RWへの書き込みは、「DLA」を使用してください。

参照 → CD-RW、DVD-RW、DVD+RWのフォーマット
《オンラインマニュアル（検索）：DLA》

参照 → DVD-RAMのフォーマット「本節 ④ DVD-RAMを使うときは」

2) 使用できる CD

【読み出しできる CD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用 CD
8cm、12cmの音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのものが使用できます。
- CD エクストラ
記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

【書き込みできる CD】

- CD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

- CD-R メディア：最大 24 倍速
最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。
- マルチスピード CD-RW メディア：最大 4 倍速
- High-Speed CD-RW メディア：最大 10 倍速
- Ultra Speed CD-RW メディア：最大 10 倍速

Ultra Speed+CD-RW メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。

CD-RW (マルチスピード、High-Speed)

：三菱化学メディア (株)、(株) リコー

CD-RW (Ultra Speed)

：三菱化学メディア (株)

CD-R : 太陽誘電 (株)、三菱化学メディア (株)、
(株) リコー、日立マクセル (株)

これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まず CD-RW メディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
「DLA」で CD-RW メディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

▶ 参照 エラーチェックの方法

『困ったときは 3 章 その他-Q セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

3 使用できる DVD

【読み出しできる DVD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- DVD-ROM ● DVD-Video (映像再生用です。映画などが収録されています)
- DVD-R ● DVD-RW ● DVD-RAM
- DVD+R

DVD+R DL (Double Layer) を読み出すためには、ディスクがクローズされている (データが書き込めない状態になっている) 必要があります。

- DVD+RW

【書き込みできる DVD】

お願い

- 本製品のドライブでは、書き込み8倍速までのDVD-R、DVD+Rメディア、書き換え4倍速までのDVD-RW、DVD+RWメディア、書き換え3倍速までのDVD-RAMメディアを使用することができます。これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

- DVD-R

書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠したメディアを使用してください。

- DVD-RW

DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1 または Ver1.2 規格に準拠したメディアを使用してください。

- DVD+R

DVD+R DL (Double Layer) は使用できません。

- DVD+RW

- DVD-RAM

DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0 または Ver2.1 規格に準拠したメディアを使用してください。

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

詳細は、「本章 フリプレット DVD ドックの仕様」を参照してください。

【 DVD-RAMの種類 】

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

* 1 一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。

* 2 2.6GB、5.2GBのディスクは書き込みできません。

お願い DVDについて

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。
DVD-RAM：松下電器産業（株）、日立マクセル（株）
DVD-RW：日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-R：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）
DVD+RW：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
DVD+R：三菱化学メディア（株）、（株）リコー

これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
「DLA」でDVD-RW、DVD+RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R への書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-R への書き込みでは、DVD の規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約 1GB に満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小 1GB のデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

▶ 参照 エラーチェックの方法

『困ったときは 3 章 その他-Q セーフモードで起動した』

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAM をドライブにセットしたとき、システムが DVD-RAM を認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- 市販の DVD-R には業務用メディア (for Authoring) と一般用メディア (for General) があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
一般用メディア (for General) を使用してください。
- 市販の DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R には「for Data」と「for Video」の 2 種類があります。映像を保存する場合や家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。

4 DVD-RAM を使うときは


ここでは、DVD-RAMに書き込みをする前に必要な操作について説明します。

1 フォーマットとは

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。

フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。

フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細はPDFマニュアルを確認してください。

 「本項 2-PDF マニュアルを見る方法」

お願い

フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。

ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。

選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

【UDF2.0】

-VRフォーマットに対応したファイルシステムです。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性があります。

【UDF1.5】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。
このファイルシステムのメディアは、本製品以外のWindows XP*1 / 2000*2
がインストールされたパソコン*3でもデータを読み出すことができます。
家庭用DVDビデオレコーダとの互換性はありません。

【 FAT32 】

本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP*1 / Me*4 / 98*5 がインストールされたパソコン*6 でもデータを読み出すことができます。家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

- * 1 Windows XP Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition 2005 operating system 日本語版、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版、または Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
- * 2 Windows 2000 ... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
- * 3 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。
- * 4 Windows Me ... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
- * 5 Windows 98 ... Microsoft® Windows® 98 SECOND Edition operating system 日本語版
- * 6 DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。

2 フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。

1 フォーマットする DVD-RAM をセットする

参照▶ DVD-RAM のセット 「本章 2-① CD / DVD のセット」

2 [スタート] → [マイ コンピュータ] をクリックする

[マイ コンピュータ] 画面が表示されます。

3 [DVD-RAM ドライブ] をクリックする

[DVD-RAM ドライブ] が選択され、アイコンの色が反転します。

4 メニューバーの [ファイル] をクリックし①、表示されたメニューから [フォーマット] をクリックする②

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。



[DVDForm] 画面が表示されます。

5 【ドライブ】 と 【フォーマット種別】 を選択する

映像を書き込み、家庭用 DVD ビデオレコーダで再生するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF2.0)] を選択してください。

パソコンで使用するための DVD-RAM を作成する場合は、[ユニバーサルディスクフォーマット (UDF1.5)] を選択してください。

6 ボリュームラベル名を入力する

UDF 形式を選択した場合は、必ず入力してください。

7 【開始】 ボタンをクリックする

物理フォーマットを行う場合は、[物理フォーマットを実行する] をチェックしてから、[開始] ボタンをクリックしてください。

物理フォーマットを行うと、DVD-RAM 上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います (通常は行う必要はありません)。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットが完了するまでに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

8 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

9 メッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他の DVD-RAM も続けてフォーマットする場合は、DVD-RAM を入れ替えて、手順 5 から実行します。

フォーマットを終了する場合は、[DVDForm] 画面で [閉じる] ボタンをクリックしてください。

PDF マニュアルを見る方法

1 【スタート】 → 【すべてのプログラム】 → 【DVD-RAM】 → 【DVD-RAM ドライバー】 → 【DVD-RAM ディスクの使い方】 をクリックする

「Adobe Reader」が起動し、PDF マニュアルが表示されます。

DVD-RAM の使いかたの詳細がご覧いただけます。

お願い CD / DVD の取り扱いと手入れ

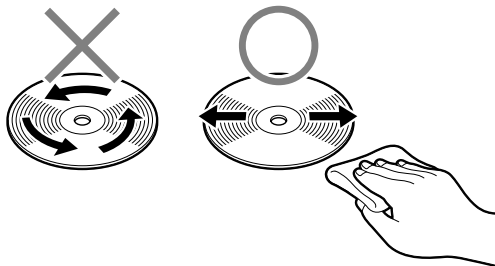
CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
- CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD / DVD のデータ記憶面／レーベル面ともにラベルを貼らないでください。
- CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD / DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。

ボールペンなど、先の硬いものを使用しないでください。

- CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布でふき取ってください。

ふき取りは円盤に沿って環状にふくのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状にふくようにし、乾燥した布ではふき取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



6 DVD-Video を観る

リブレット DVD ドックを接続すると、ドライブに DVD-Video をセットして、本製品で映像を楽しむことができます。

DVD-Video 再生ソフトウェアとして、「インタービデオ ウィンディーファイター InterVideo WinDVD」が用意されています。ここでは、「InterVideo WinDVD」の使いかたを説明します。

また、クイックプレイ機能を使用して、DVD-Video を観ることもできます。

参照 クイックプレイについて 「本章 4 クイックプレイ」

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video の再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用して DVD-Video を再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Video を再生してください。
- DVD-Video 再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3 の再生はサポートしていません。
- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- DVD-Video を再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。

再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。

- DVD-Video の再生は Region コード「2」、リージョン「ALL」のものをご使用ください。
- 外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの拡張表示の設定では、外部ディスプレイに表示するための設定が必要です。

本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示をしているとき DVD-Video を再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、本体液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみに表示するか、拡張表示に設定してください。

参照 表示装置の切り替え 「4 章 4 外部ディスプレイを接続する」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。

「Readme」の起動は、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [readme1st.txt] をクリックしてください。

1 InterVideo WinDVD を起動する

「InterVideo WinDVD」を起動する方法は、次のとおりです。

1 起動方法

1 DVD-Video をセットする

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照 DVDのセットについて「本章 2-① CD / DVDのセット」

アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、[マイ コンピュータ] で (D:) ドライブをダブルクリックしてください。

「InterVideo WinDVD」が起動します。

2 [DVDムービーの再生 InterVideo WinDVD 使用] を選択し①、 [OK] ボタンをクリックする②



「InterVideo WinDVD」が起動します。

メモ

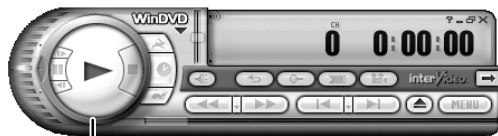
[スタート] メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム] → [InterVideo WinDVD] → [InterVideo WinDVD] をクリックしてください。

2) InterVideo WinDVD を使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウと WinDVD コントロールパネルが表示されます。

再生する DVD-Video によっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

メインウィンドウ
ビデオを表示します。

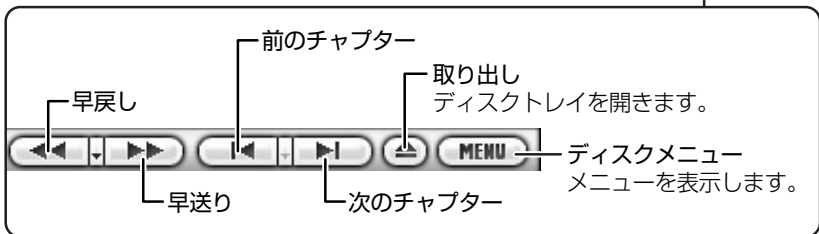
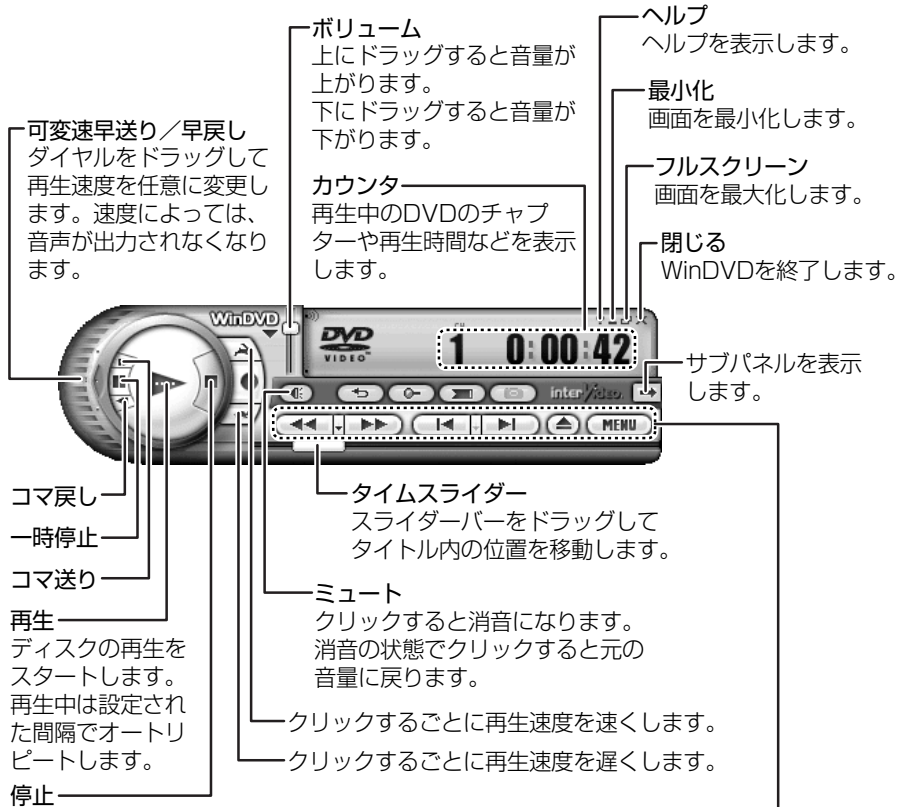


WinDVDコントロールパネル

DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、
「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照してください。

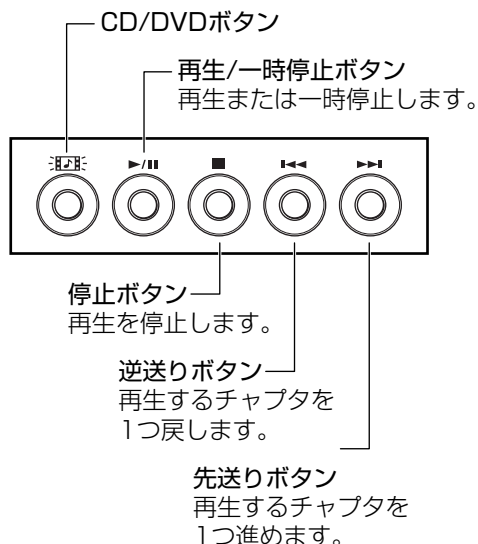
1 WinDVDコントロールパネル

DVD再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。



2 フロントオペレーションパネルで操作する

フロントオペレーションパネルから DVD-Video の基本操作を行うことができます。




3 外部ディスプレイに表示する

パソコン本体に外部ディスプレイを接続して、DVD-Video の再生画面を表示させることができます。

「InterVideo WinDVD」を起動する前に、表示装置を切り替えてください。また、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示させる場合は、設定が必要です。

参照 → 詳細について 「4 章 4 外部ディスプレイを接続する」

ヘルプの起動方法

- 1 WinDVD コントロールパネルの【ヘルプ】ボタン () をクリックする

参照 → 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先
『困ったときは 6 章 2 アプリケーションの問い合わせ先』

7 リブレット DVD ドックの仕様

機種	リブレット DVD ドック
ドライブ機能 *1	CD-ROM 読み出し：最大24倍速 CD-R 書き込み：最大24倍速 CD-RW (マルチスピード) 書き換え：最大4倍速 High-Speed対応 CD-RW 書き換え：最大10倍速 Ultra Speed対応 CD-RW 書き換え：最大10倍速 DVD-ROM 読み出し：最大8倍速 DVD-R 書き込み：最大2倍速 DVD-RW 書き換え：最大2倍速 DVD+R 書き込み：最大2.4倍速 DVD+RW 書き換え：最大2.4倍速 DVD-RAM 書き換え：2倍速 8cm、12cmのディスク対応、マルチセッション
使用環境条件 *2	温度：5℃～35℃ 湿度：20%～80%
外形寸法 (突起部除く)	211mm (幅) x 158mm (奥行) x 20.9mm (手前部高さ) / 14.3mm (後部高さ)
質量	約450g

* 1 ドライブは、各種ディスクの特性にあった速度を選択して読み出し／書き込みを行います。
ディスクによっては最大速度での読み出し／書き込みができない場合もあります。

* 2 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度であり、性能を保証するものではありません。

Panasonic DVD スーパーマルチドライブ UJ-822 (DVD スーパーマルチドライブ) 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。

本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格 EN60825 で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION

CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.

ATTENTION

CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.

VORSICHT

KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.

ADVARSEL

KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.

ADVARSEL

KLASSE 3B SYNLIG OG OSYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.

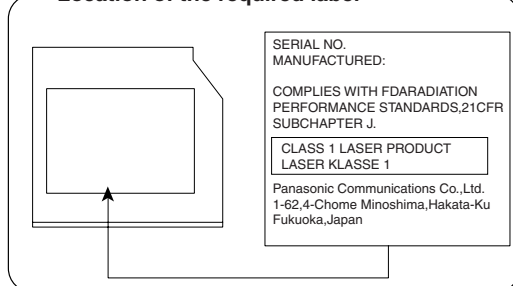
VARNING

KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.

VARO!

KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



4 章

周辺機器の接続

パソコンでできることをさらに広げたい。そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

-
- 1 周辺機器について 116
 - 2 PC カードを接続する 118
 - 3 USB 対応機器を接続する 122
 - 4 外部ディスプレイを接続する 124
 - 5 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する 131
 - 6 その他の機器を接続する 133
 - 7 メモリを増設する 135


1 周辺機器について

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。

周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。周辺機器には、次のようなものがあります。本製品では、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵）
- PC カード
- モデム（本製品では内蔵）
- スキャナ
- フロッピーディスクドライブ
- マウス
- デジタルカメラ
- 増設メモリ*1

*1 増設の際は、メモリ購入前に「本章 7 メモリを増設する」をご覧ください。

 参照 周辺機器の接続場所は『さあ始めよう 2 章 1 各部の名前』

周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているか確認してから購入してください。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のことです。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。

- ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタから AC アダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサージョンとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。

- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

1 ドライバをインストールする

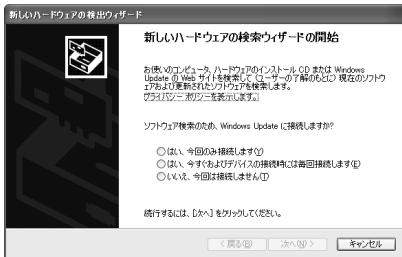
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。

周辺機器を接続すると Windows がドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】

[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。

[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2 PCカードを接続する

目的に合わせた^{ピーシー}PCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。PCカードには、次のようなものがあります。

- ISDNカード
- ^{スキャニ}SCSIカード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

1) PCカードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠のTYPE II対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。

PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用しているPCカードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

お願い

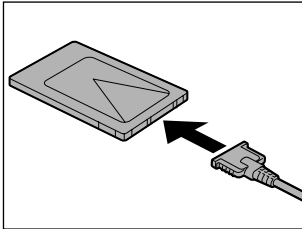
- ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

2) PCカードを使う

PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

1 取り付け

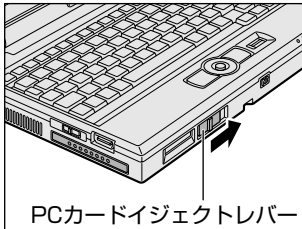
1 PCカードにケーブルを付ける



SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

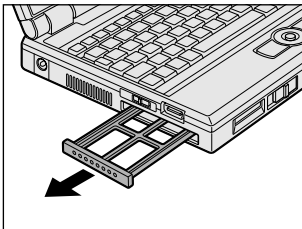
2 PCカードイジェクトレバーを矢印の方向にスライドする

ダミーカードが少し出てきます。

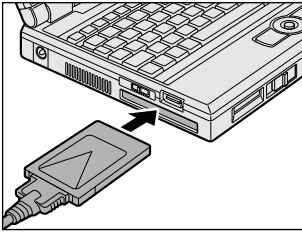


3 ダミーカードを抜く

ダミーカードはなくさないように保管してください。



4 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押ししてください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。

カードを挿入すると、PCカードイジェクトレバーが自動的に左側にスライドします。



カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

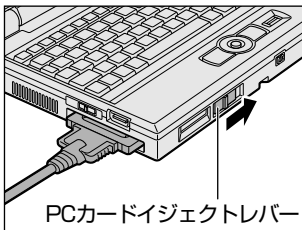
お願い

取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PCカードの使用を停止する

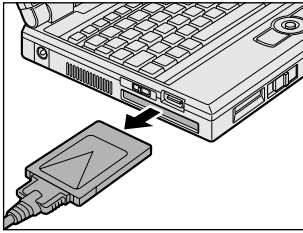
- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 PCカードイジェクトレバーをスライドする



カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。
故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

4 ダミーカードを挿入する

お願い

PCカードを取りはずした後はダミーカードを挿入してください。ホコリやゴミなどがPCカードスロットに入り、故障するおそれがあります。

3 USB 対応機器を接続する

ユーザー
USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB 1.1 対応機器を取り付けることができます。

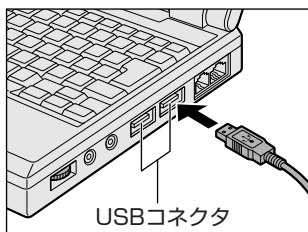
USB 対応機器の詳細については、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直さずか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む
プラグの向きを確認して差し込んでください。





- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む
この手順が必要ない機器もあります。

2 取りはずし

お願い

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置のUSB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

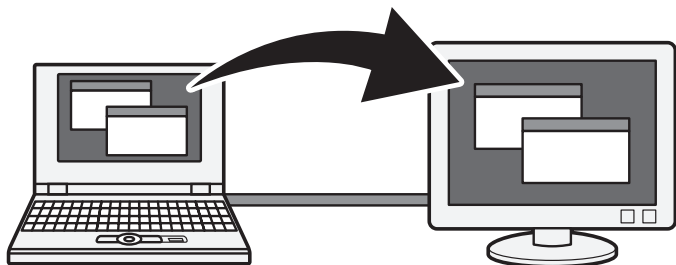
1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
 - ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
 - ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする
- * 通知領域にこのアイコンが表示されないUSB 対応機器は、手順1の①～③は必要ありません。

2 パソコン本体とUSB 対応機器に差し込んであるUSB ケーブルを抜く

4 外部ディスプレイを接続する

ミニ RGB コネクタに、同梱のミニ RGB ケーブルを使用して外部ディスプレイを接続できます。外部ディスプレイに Windows のデスクトップ画面を表示させることができます。



メモ

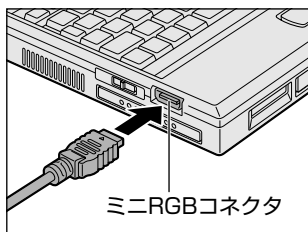
使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。

1 取り付け

同梱のミニ RGB ケーブルを使用してください。

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 ミニ RGB ケーブルのプラグをミニ RGB コネクタに差し込む



2 外部ディスプレイのケーブルのプラグを、ミニ RGB ケーブルの RGB コネクタに差し込む

3 外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる 外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

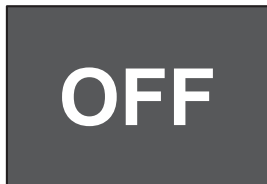
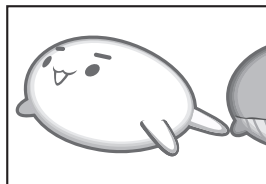
2 取りはずし

- 1 パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切る
- 2 ミニRGBケーブルのRGBコネクタから、外部ディスプレイのケーブルを抜く
- 3 ミニRGBコネクタからミニRGBケーブルを抜く

3 表示装置を切り替える

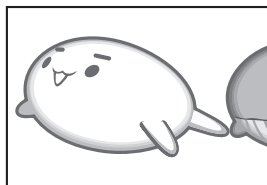
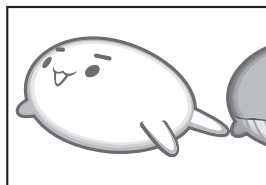
外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

【本体液晶ディスプレイだけに表示／外部ディスプレイだけに表示】



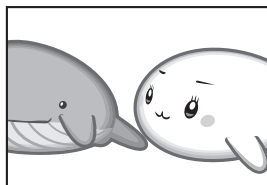
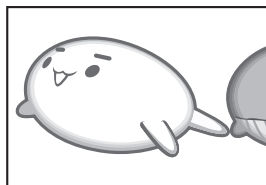
いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

【本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示】



2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

【本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの拡張表示】



*方法1でのみ設定できます。
2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。



お願い

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間
- 同時表示しているときにDVD-Videoを再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、本体液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかだけに表示するか、拡張表示に設定してください。

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはアキュポイントの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで10秒前後かかることがあります。故障ではありません。

方法1ー 画面のプロパティで設定する

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ デスクトップの表示とテーマ] をクリック → [ 画面] をクリックする
- 2 [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする
- 3 [Intel(R) Extreme Graphics 2 for Mobile] タブで [グラフィックのプロパティ] ボタンをクリックする
- 4 [デバイス] タブで表示する装置と形式を選択する
 - 本体液晶ディスプレイだけに表示
[ノートブック] アイコンをクリック
 - 外部ディスプレイだけに表示
[PC モニタ] アイコンをクリック
 - 同時表示
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイのそれぞれにデスクトップ画面を表示します。
 - ① [Intel(R) Dual Display Clone] アイコンをクリック
 - ② [プライマリデバイス] に [ノートブック]、[セカンダリデバイス] に [PC モニタ] と表示されていることを確認する

- 拡張表示

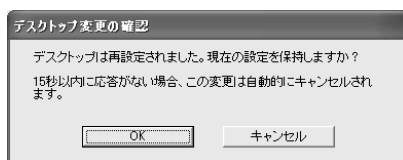
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイを1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。

本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示している場合、[画面のプロパティ] から拡張表示を設定できません。(CTRL)+(ALT)+(F12) キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。

- ① [拡張デスクトップ] アイコンをクリック
- ② [プライマリデバイス] に [ノートブック]、[セカンダリデバイス] に [PC モニタ] と表示されていることを確認する

5 [OK] ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



6 [OK] ボタンをクリックする

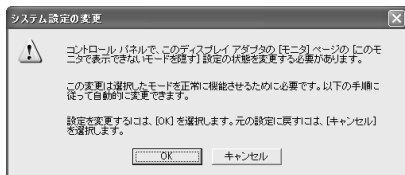
7 [OK] ボタンをクリックする

8 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

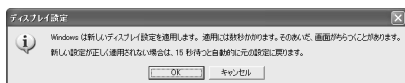
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。

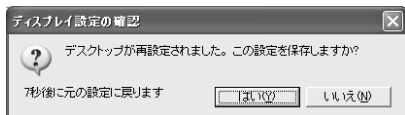
● [システム設定の変更] 画面



● [ディスプレイ設定] 画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



方法 2— (FN) + (F5) キーを使う

(FN) キーを押したまま (F5) キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(FN) キーを押したまま (F5) キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(FN) キーを離すと表示装置が切り替わります。

● 表示装置を LCD (本体液晶ディスプレイ) に戻す方法

現在の表示装置が LCD (本体液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、表示装置を LCD に戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、(FN) + (F5) キーを 3 秒以上押し続けてください。


表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、(FN) + (F5) キーを 3 秒以上押し続けてください。



- LCD 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 本体液晶のディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT 外部ディスプレイだけに表示
外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

「方法1」で「拡張表示」に設定した場合は、**(FN)+(F5)**キーで表示装置を切り替えられません。「方法1」の手順で表示装置を切り替えてください。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは [Windows の ログオフ] 画面で [ログオフ] を選択して切り替えてください。[ユーザーの切り替え] で切り替えた場合は、**(FN)+(F5)**キーで表示装置を切り替えられません。


 ユーザアカウントの切り替え『ヘルプとサポート センター』

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも、本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。
- 外部ディスプレイに1280×768ドットで表示すると、縦方向が伸びて表示されます。

4 ディスプレイ表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

 ビデオモードについて「付録 1-1 サポートしているビデオモード」

[Intel(R) 82852/82855 GM/GME Graphics Controllerのプロパティ] で本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイを同時表示のとき、もしくは本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの拡張表示のときに、サポートしていない画面モードが選択されてしまうときがあります。その際は、外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてください。

5 常に外部ディスプレイに表示するには

購入時の状態では、パソコンの電源を入れたときや休止状態から復帰したときに、デスクトップ画面が前回使用していた表示装置が存在している場合、その表示装置に表示されます。

これを、前回使用していた表示装置が本体液晶ディスプレイであっても、パソコンの電源を入れたときや休止状態から復帰したときに、外部ディスプレイが接続されていれば、常に外部ディスプレイに表示するようにできます。

次の手順で「TOSHIBA Display Service for Ext.Monitor」をインストールしたあと、パソコンを再起動してください。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をクリックする
- ② [セットアップ画面へ] をクリックする
- ③ [東芝ユーティリティ] タブで [TOSHIBA Display Service for Ext.Monitor] をクリックする
- ④ [「TOSHIBA Display Service for Ext.Monitor」のセットアップ] をクリックする
- ⑤ 表示されるメッセージに従ってインストールを行う
[ファイルのダウンロード] 画面上で [実行] を選択してください。

5 i.LINK (IEEE1394) 対応機器を接続する

アイリンク アイトロUBLEイイチサンキョウモン
i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ など

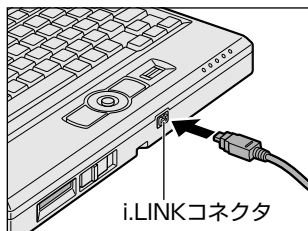
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめご了承ください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときに他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないとき、またはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 3m 以内の長さのケーブルを使用してください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取り付けなど、パソコン本体の省電力設定の自動切替を伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け



- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体のi.LINK コネクタに差し込む
プラグの向きを確認して差し込んでください。



- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

- 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

* 通知領域にこのアイコンが表示されない i.LINK 対応機器は、手順 1 の①～③は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINKによるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する
- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

6 その他の機器を接続する

本製品には、ここまで説明してきた他にも、さまざまな機器を接続できます。

1 マイクロホン

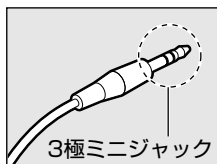
マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

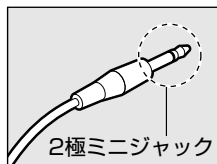
参照 → サウンド機能について「1章 3 サウンド機能」

1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

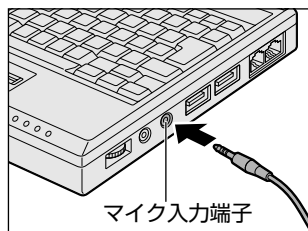
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice」が用意されています。

参照 → 「LaLaVoice」について
《オンラインマニュアル（検索）：LaLaVoice》

2 接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホン

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い

次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

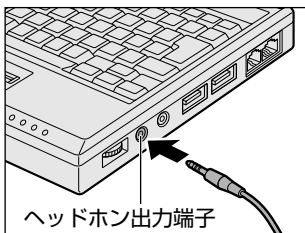
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

1 接続

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

7 メモリを増設する

メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品にはメモリスロットが1つあり、あらかじめメモリが取り付けられています。メモリを拡張するためには、あらかじめ取り付けられているメモリを取りはずして、別売りの増設メモリを取り付けてください。

取り付けることのできるメモリの容量は、最大1GBまでです。

⚠ 警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

⚠ 注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後はやけどするおそれがありますので増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。電源を切った後30分以上たってから行うことをおすすめします。

お願い

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、次のような警告音（ビープ音）が鳴ります。

警告音	エラーの原因
ピー、ピッ	動作保証されていないメモリ（SPD 対応）が取り付けられている。
警告音が鳴らない	動作保証されていないメモリ（SPD 非対応）が取り付けられている。

お願い 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 取りはずし／取り付け

あらかじめ取り付けられているメモリを増設メモリに交換する方法を説明します。

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照▶ 電源の切りかた『さあ始めよう 1 章 4 電源を切る／入れる』

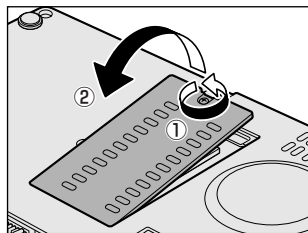
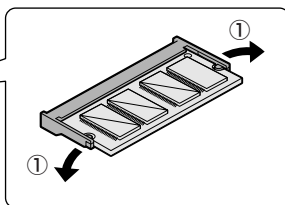
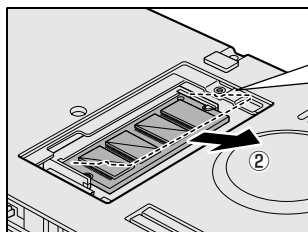
2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

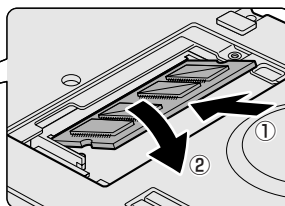
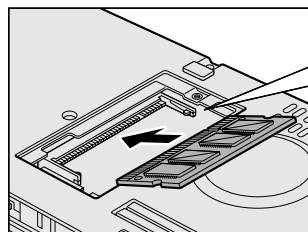
参照▶ バッテリーパックの取りはずし「5 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

4 メモリカバーのネジ1本をゆるめ①、カバーをはずす②

メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

**5** メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、メモリをパソコン本体から取りはずす②

斜めに持ち上がったメモリを引き抜きます。

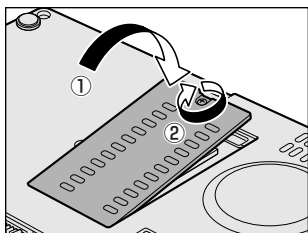
6 増設メモリをメモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

7 メモリカバーをつけて①、手順4でゆるめたネジ1本をとめる②

メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



8 バッテリパックを取り付ける

参照▶ バッテリパックの取り付け「5章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照▶ メモリ容量の確認について「本節 2 メモリ容量の確認」

2 メモリ容量の確認

メモリ容量は「システム情報」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- ② [システムの概要] で [合計物理メモリ] の数値を確認する

5章

バッテリー駆動

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認、省電力の設定、一時的に使用を中断するときの設定など、バッテリー使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

-
- 1 バッテリーについて 140
 - 2 省電力の設定をする 148
 - 3 パソコンの使用を中断する／電源を切る 149

1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

危険

- バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝製バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS062）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。

警告

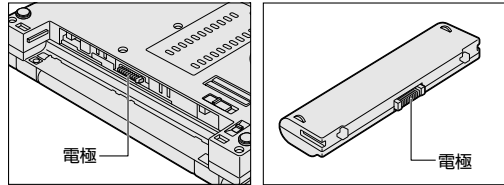
- 別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

注意

- バッテリーパックの充電温度範囲内（5～35℃）で充電してください。
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

お願い

- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリーを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、1度全バッテリーを充電してください。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

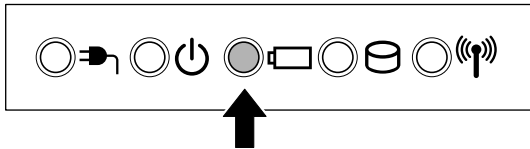


1) バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する


ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



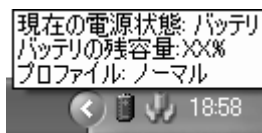
Battery  LED は次の状態を示しています。

緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 ▶ バッテリーの充電について「本節 ② バッテリーを充電する」
消灯	・ バッテリーが接続されていない ・ ACアダプタが接続されていない ・ バッテリー異常 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。


2 通知領域の [省電力] アイコンで確認する

通知領域の [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。




参照▶ 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery  LED や [省電力] アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

参照▶ 再充電について「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」


3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
「東芝省電力」の [アクション設定] タブの [アラーム設定] で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ① パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- ② 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続し電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリー
電源 ON（Power  LED が緑色に点灯）	8 時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2) バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い

バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN ➔ LED が緑色に点灯して Battery □ LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON / OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery □ LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery □ LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN ➔ LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

メモ

パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

詳細は、別紙の『libretto U100 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【使用できる時間】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳細は、別紙の『libretto U100 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【バッテリー駆動時の処理速度】

高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するために AC アダプタを接続してご使用ください。

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

保持時間は、充電完了の状態でご電源を切った場合を目安にしてください。

詳細は、別紙の『libretto U100 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリーを長持ちさせるには

- AC アダプタをコンセントに接続したままでパソコンを 8 時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにも AC アダプタをコンセントからはずしてください。
- 1 ヶ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1 ヶ月に 1 度は、AC アダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体から AC アダプタをはずし、パソコンの電源を入れる 電源が入らない場合は手順 4 へ進んでください。

3 5 分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery LED が点滅するか、充電量が少なくなった等の警告が表示された場合は、すぐに AC アダプタを接続し、手順 4 へ進みます。

4 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ
DC IN ➡ LED が緑色に点灯して Battery ❏ LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery ❏ LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery ❏ LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN ➡ LED が消灯している場合は、通電していません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする ➡ 「本章 3-② 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく
➡ 「本章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力のプロファイルを設定する ➡ 「本章 2 省電力の設定をする」

3) バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

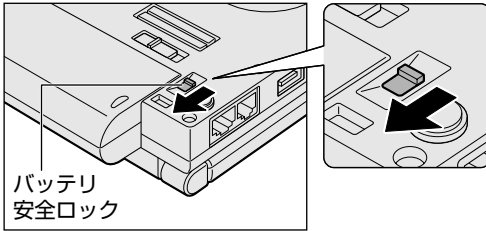
お願い

キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

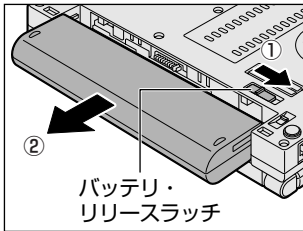
- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類ははずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

4 バッテリー安全ロックを矢印の方向に移動する

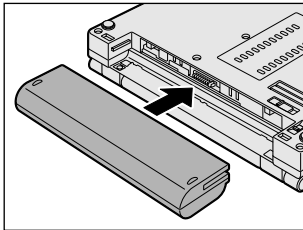
バッテリー
安全ロック

バッテリー・リリースラッチがスライドできるようになります。

5 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを取りはずす②

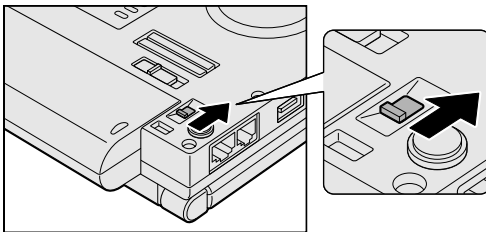
バッテリー・
リリースラッチ

6 交換するバッテリーパックを、カチッという音がするまで静かに差し込む



新しいあるいは充電したバッテリーパックを注意して、カチッという音がするまで差し込んでください。

7 バッテリー安全ロックを矢印の方向に移動する



バッテリーパックがはずれないように、バッテリー安全ロックは必ず行ってください。

2 省電力の設定をする

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。

省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境ごとに設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境にあわせてプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更できます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

1 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。

ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

1 東芝省電力の起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- 2 [東芝省電力] をクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。



(表示例)

使いかたについては、ヘルプをご覧ください。

ヘルプの起動方法

- 1 「東芝省電力」を起動後、画面右上の ? をクリックする
ポインタが ? に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする
ヘルプの該当するページが表示されます。

3 パソコンの使用を中断する/電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。

再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

お願い 操作にあたって

- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スタンバイ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
 - ・ スタンバイ中にメモリを取り付け／取りはずしすること
 - ・ スタンバイ中にバッテリーパックをはずすことまた、スタンバイ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押しっぱなし電源を切った後、再度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailureで起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込むとき、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与えることがあります。
- スタンバイまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

1 スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。

スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、ACアダプタを取り付けて使用することを推奨します。

1 スタンバイの実行方法

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



- 2 [スタンバイ] をクリックする



メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

- 3 Power LEDがオレンジ点滅しているか確認する

メモ

(FN)+(F3)キーを押して、スタンバイにすることもできます。

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。

休止状態が無効の場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリ駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。

購入時は、休止状態が有効に設定されており、バッテリーが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。

1 休止状態の実行方法

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
 - ② [電源オプション] をクリックする
 - ③ [休止状態] タブで [休止状態を有効にする] をチェックする
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- 休止状態が有効になります。

2 [スタート] ボタンをクリックし①、[終了オプション] をクリックする②



3 (SHIFT)キーを押したまま [休止状態] をクリックする

(SHIFT)キーを押している間は、[スタンバイ] が [休止状態] に変わります。



Power LED が点灯中は、バッテリーパックを取りはずさないでください。

(FN)+(F4)キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。

休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されています。解除した場合は、「本節 ②-1 休止状態の実行方法」手順 1 を参照して、設定しておいてください。

1 電源スイッチを押す

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [電源ボタンを押したとき] で [入力を求める] [スタンバイ] [休止状態] [シャットダウン] のいずれかを選択する [何もしない] に設定すると、特に変化はありません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順 1 の③で [入力を求める] を選択したときは、[コンピュータの電源を切る] 画面が表示されます。

2 ディ스플레이を閉じる

ディスプレイを閉じることによって [スタンバイ] [休止状態] のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

1 ディ스플레이を閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [アクション設定] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] のいずれかを選択する
[何もしない] に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

2 ディ스플레이を閉じる

設定した状態へ移行します。

[スタンバイ] [休止状態] に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

6章

アプリケーションについて

アプリケーションについて知っておきたいことを説明しています。

-
- 1 アプリケーションを追加（インストール）する 156
 - 2 アプリケーションを削除（アンインストール）する 157

1 アプリケーションを追加(インストール)する

インストールとは、必要なファイルなどをパソコンに組み込んで、アプリケーションを使えるようにすることです。

新規に購入したアプリケーションを使うときに必要な作業です。

また、購入時にすでにインストール済みであることをプレインストールといいます。



お願い

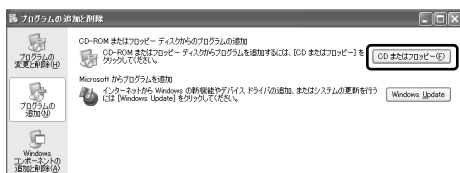
- アプリケーションの追加や削除を行う前に、必ずデータを保存し、その他のアプリケーションを終了させてください。終了せずに、追加や削除を行うと、データが消失するおそれがあります。

アプリケーションのインストールは、コンピュータの管理者アカウントで行います。[プログラムの追加と削除] からアプリケーションをインストールする方法を説明します。

手動で [プログラムの追加と削除] を実行しなくても、CD-ROMなどを挿入したときに自動的にインストールのプログラムが起動する場合もあります。その場合は表示されるメッセージに従って操作してください。

1 操作手順

- 1 インストールしたいアプリケーションのフロッピーディスクまたはCD-ROMなどをセットする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 3 [プログラムの追加] ボタン () をクリックする
- 4 [CDまたはフロッピー] ボタンをクリックする



この後の作業はアプリケーションによって異なります。表示されるメッセージに従って操作してください。

2 アプリケーションを削除(アンインストール)する

アプリケーションを削除することを、アンインストールといいます。
本製品にプレインストールされているアプリケーションは、いったん削除した場合でも、再インストールして使用することができます。


▶ 参照 再インストールについて
『困ったときは 4 章 3 アプリケーションを再インストールする』

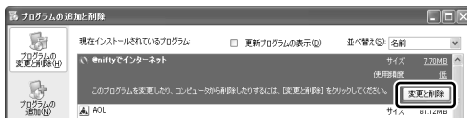
アプリケーションを削除する方法を説明します。
アプリケーションの削除は、コンピュータの管理者アカウントで行います。
アプリケーションの削除は、本当に削除してよいか、よく確認してから行ってください。

メモ

アプリケーションによっては、アンインストールするためのユーティリティ(アンインストーラ)が用意されています。削除したいアプリケーションが一覧にないときは、アンインストーラを使用して削除できる場合があります。詳しくは、アプリケーションのヘルプや『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

1 操作手順

- 1 [コントロールパネル] を開き、[ プログラムの追加と削除] をクリックする
- 2 現在インストールされているプログラムの一覧から削除したいアプリケーションをクリックする
- 3 [削除] または [変更と削除] ボタンをクリックする



(表示例)

表示されるメッセージに従って操作してください。

7章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

-
- 1 システム環境の変更とは 160
 - 2 BIOS セットアップを使う 161
 - 3 指紋認証を使う 176

1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照▶ 《オンラインマニュアル（検索）：システム環境を設定する》
パスワードセキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照▶ 《オンラインマニュアル（検索）：ユーザパスワード》
	スーパーバイザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照▶ 《オンラインマニュアル（検索）：スーパーバイザパスワード》
省電力の設定		「東芝省電力」 参照▶ 「5 章 2 省電力の設定をする」

BIOS セットアップについては「本章 2 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2 BIOS セットアップを使う

^{バイオス}BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。

次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定

BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝パスワードユーティリティ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。
BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリー（時計用バッテリー）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

1 起動と終了

1 起動

1 (ESC)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1)キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 (FN) + (→) キーを押す

本製品では、(FN) + (→) が (END) キーの機能を持ちます。

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には、この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 (ESC) キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y) キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	(↑)、(↓)、(←)、(→) 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	(SPACE) または (BACKSPACE)
画面を切り替える	(FN) + (↓) または (FN) + (↑) 本製品では、(FN) + (↓) が (PGDN) キー、(FN) + (↑) が (PGUP) キーの機能を持ちます。 次の画面または前の画面に切り替わります。
設定内容を標準値にする	(FN) + (←) 本製品では、(FN) + (←) が (HOME) キーの機能を持ちます。 次の項目は、この操作をしても変更されません。 <ul style="list-style-type: none">● SYSTEM DATE/TIME● PASSWORD

2) BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の2つの画面があります。

SYSTEM SETUP (1/2) ACPI BIOS version = X. XX

①	MEMORY Total = XXXXXXMB	BOOT PRIORITY Boot Priority = HDD → FDD → CD-ROM → LAN HDD Priority = Built in HDD → USB Network Boot Protocol = PXE	⑤
②	SYSTEM DATE/TIME Date (MM-DD-YYYY) = XX-XX-XXXX Time (HH:MM:SS) = XX:XX:XX	DISPLAY Power On Display = Auto-Selected LCD Display Stretch = Enabled	⑥
③	BATTERY Battery Save Mode = Full Power	OTHERS Power-up Mode = Boot Dynamic CPU Frequency Mode = Dynamically Switchable Auto Power On = Disabled Panel Power On/Off = Disabled Performance/Battery Life Setting = Performance Diagnostic Mode = Disabled	⑦
④	PASSWORD Not Registered		

↑↓+ : Select items **Space, BkSp** : Change values **PgDn, PgUp** : Change pages
Esc : Exit without saving **Home** : Set default values **End** : Save changes and Exit

SYSTEM SETUP (2/2) ACPI BIOS version = X. XX

⑧	CONFIGURATION Device Config. = Setup by OS	LEGACY EMULATION USB KB/Mouse Legacy Emulation = Enabled USB-FDD Legacy Emulation = Enabled USB Memory BIOS Support Type = HDD	⑪
⑨	DRIVES I/O Built-in HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14)	PCI LAN Built-in LAN = Enabled	⑫
⑩	PCI BUS PCI BUS = IRQ10, IRQ11		

↑↓+ : Select items **Space, BkSp** : Change values **PgDn, PgUp** : Change pages
Esc : Exit without saving **Home** : Set default values **End** : Save changes and Exit

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

参照 → 設定項目の詳細について 「本節 ③ 設定項目」

3 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。
ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY—メモリ容量を表示する

【 Total 】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME—日付と時刻の設定をする

日付と時刻の設定は(SPACE)または(BACKSPACE)キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【 Date 】

日付を設定します。

【 Time 】

時刻を設定します。

3 BATTERY—バッテリーで長く使用するための設定をする

【 Battery Save Mode 】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)

Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.
HDD Auto Off = 30Min.
System Auto Off
= Disabled
LCD Brightness = Bright*¹
Super-Bright*²
Cooling Method = Maximum Performance

●User Setting (設定例)

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off
= 30Min.
LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Battery Optimized

●Low Power

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off
= 30Min.
LCD Brightness = Semi-Bright*¹
Bright*²
Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。

LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

- *1 バッテリ駆動時
- *2 ACアダプタ接続時

「User Setting」で「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑) (↓)キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High..... 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPU が処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

● Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合 (マウスやアキュポイントの操作も含む) にディスプレイを消灯して節電します。

画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、(SHIFT)キーを押すか、マウス、アキュポイントを操作してください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」～「30Min.」から選択します。ハードディスクドライブを保護するため、「Disabled」は設定できません。

- **System Auto Off (システム自動停止時間)**

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」～「60Min.」から選択します。

- **LCD Brightness (LCD 輝度)**

画面の明るさを選択します。

- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する
- ・ Bright 高輝度に設定する
- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する

- **Cooling Method (CPU 熱制御方式)**

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance ... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
- ・ Performance パソコン本体内部の温度が上昇したときに、[Maximum Performance] と [Battery Optimized] の中間的な方法で冷却します。
- ・ Battery Optimized パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主に CPU の処理速度を落として冷却します。
[Performance] より消費電力は少なくなります。

4 PASSWORD—ユーザパスワードの登録／削除をする

ユーザパスワードの登録や削除は、「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

▶ **参照** 東芝パスワードユーティリティでのパスワード設定
《オンラインマニュアル（検索）：ユーザパスワード》

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザパスワードが設定されていないときに表示されます（標準値）。

【 Registered 】

ユーザパスワードが設定されているときに表示されます。

■ ユーザパスワードの登録 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

ユーザパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、ユーザパスワードを削除してから、登録してください。

▶ **参照** ユーザパスワードの削除方法「本項 4- ユーザパスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 (ENTER)キーを押す

パスワードが確認され、「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

5 もう1度、パスワードを入力する

確認のため、手順3と同じパスワードをもう1度入力してください。

6 (ENTER) キーを押す

パスワードが登録されます。2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

7 ユーザパスワードの登録が終了したら、(FN) + (→) キーを押す

本製品では、(FN) + (→) が (END) キーの機能を持ちます。
次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.

8 (Y) キーを押す

パスワードが登録されます。
BIOS セットアップの画面に戻るには (N) キーを押します。

■ ユーザパスワードの削除 ■

「東芝パスワードユーティリティ」からの削除については《オンラインマニュアル (検索) : ユーザパスワード》を確認してください。

1 BIOS セットアップを起動する

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Registered」に合わせ、

(SPACE) または (BACKSPACE) キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに * が表示されます。

4 (ENTER) キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 (ENTER) キーを押す

ここでは何も入力しません。

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 (ENTER) キーを押す

ここでは何も入力しません。

パスワードが削除されます

手順 3 で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ピーブ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順 3 からやり直してください。

入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

■ ユーザパスワードを忘れてしまったとき ■

「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディアに保存した場合は、他のパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。パスワードファイルを外部記憶メディアに保存しなかった場合にユーザパスワードを忘れてしまったときは、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

■ ユーザパスワードの変更 ■

- 1 BIOS セットアップを起動する
- 2 カーソルバーを「Password」の「Registered」に合わせ、
(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す
パスワードが入力できる状態になります。
- 3 登録してあるパスワードを入力する
入力すると1文字ごとに*が表示されます。
- 4 (ENTER)キーを押す
「Password」が「New Password」に変わって表示されます。
- 5 新しいパスワードを入力し、(ENTER)キーを押す
「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。
- 6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力し、(ENTER)キーを押す
パスワードが変更されます。
手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

5 BOOT PRIORITY—ブート優先順位を設定する

【 Boot Priority 】

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。

通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- 指定のドライブ順に起動する

クイックプレイ機能を使用して起動すると、「HDD」が最優先されます。

「FDD」では、別売りのフロッピーディスクドライブを接続していない場合、SDメモ리카ードが起動します。

参照▶ SDメモ리카ードの起動ディスクについて

《オンラインマニュアル (検索) : SDメモリブートユーティリティ》

「CD-ROM」では、リプレット DVD ドック (同梱 / 別売り) を接続している場合は、リプレット DVD ドックのドライブから起動します。リプレット DVD ドックを接続していない場合は、別売りの CD / DVD ドライブから起動します。

【 HDD Priority 】

「USB Memory BIOS Support Type」で HDD を選択した場合に、システムを起動する順番を設定します。

- ・ Built-in HDD → USB (標準値)
..... 内蔵ハードディスク → USB メモリの順で起動する
- ・ USB → Built-in HDD
..... USB メモリ → 内蔵ハードディスクの順で起動する

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE (標準値) PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL RPL プロトコルに設定する

6 DISPLAY—表示装置の設定をする

【 Power On Display 】

起動時の Windows ロゴを表示する装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値) システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + Analog RGB 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD + Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

Windows 起動後は、前回電源を切る前の表示装置が存在すればその表示装置に表示します。前回電源を切る前の表示装置が存在しない場合は、本体液晶ディスプレイに表示されます。

クイックプレイ機能を使用して起動すると、本体液晶ディスプレイのみ表示されます。

【 LCD Display Stretch 】

本体液晶ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Enabled (標準値) ... 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

7 OTHERS—その他の設定をする

【 Power-up Mode (レジューム機能) 】

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) レジューム機能を無効にする
- ・ Resume レジューム機能を有効にする

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

- ・ Dynamically Switchable (標準値) ... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
- ・ Always High CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
- ・ Always Low CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリー駆動時間を優先します。

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) ... タイマ・オン機能が設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能が設定されている

タイマ・オン機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は(SPACE)または(BACKSPACE)キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは(↑)(↓)キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない


● Wake-up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

「PCI LAN」の「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) ... Wake up on LAN 機能を使用しない

 「PCI LAN」について「本項 12 PCI LAN」

【 Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能) 】

ディスプレイの開閉による電源の入/切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

- ・ Disabled (標準値) パネルスイッチ機能を使用しない
- ・ Enabled パネルスイッチ機能を使用する

【 Performance/Battery Life Setting 】

メモリバス周波数とグラフィックスコア周波数を指定します。

- ・ Battery Life (標準値) バッテリ駆動時間を優先します。
- ・ Performance メモリバスとグラフィックスコアの周波数を上げて処理能力を向上させます。

それぞれの設定において、メモリバス周波数、グラフィックスコア周波数は、次のとおりです。

	Battery Life (標準値)	Performance
メモリバス周波数	266MHz	333MHz
グラフィックスコア周波数	200MHz	250MHz

【 Diagnostic Mode 】

BIOS のハードウェア診断テスト機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Disabled (標準値) ハードウェア診断テスト機能を無効にする
- ・ Enabled ハードウェア診断テスト機能を有効にする

8 CONFIGURATION

【 Device Config. 】

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) ... OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
- ・ All Devices すべての装置を初期化する

プレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。

9 DRIVES I/O—HDD の設定

【 Built-in HDD 】

ハードディスクドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

10 PCI BUS—PCIバスの割り込みレベルを表示する

【 PCI BUS 】

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 LEGACY EMULATION

【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】


USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード / USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- ・ Enabled (標準値) ... レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

 「BOOT PRIORITY」について 「本項 5 BOOT PRIORITY」

【 USB Memory BIOS Support Type 】

コンピュータの起動に使用する USB メモリに関する設定をします。

- ・ HDD (標準値) USB メモリを HDD として扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」での HDD の順位になります。他の HDD との優先順位は、「HDD Priority」で設定できます。
- ・ FDD USB メモリを FDD として扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」での FDD の順位になります。

12 PCI LAN

【 Built-in LAN 】

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) ... 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

3 指紋認証を使う

本製品には指紋センサと「指紋認証ユーティリティ」が用意されています。ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。

キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサ上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- スクリーンセーバ解除
[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバ] タブで、「パスワードによる保護」または「再開時によろこ画面に戻る」をチェックしてある場合に実行できます。
* パソコン本体に複数のユーザーアカウントが登録されている場合は、「再開時によろこ画面に戻る」が表示されます。
- スタンバイからの復帰
[東芝省電力] の [アクション設定] タブで、「スタンバイ/休止状態復帰時にパスワードを求める」の「する」をチェックしてある場合に実行できます。

また、「指紋認証ユーティリティ」には、ファイル暗号化機能や、インターネットのホームページでパスワードを簡単に指紋認証で入力する機能があります。詳しくは「指紋認証ユーティリティ取扱説明書」を参照してください。

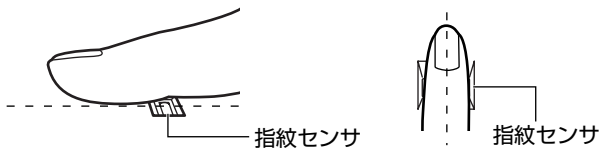
お願い 操作する前に

指紋センサは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサ表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取扱いは故障の原因となります。
 - ・ 指紋センサ表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
 - ・ 指紋センサ表面を強く押す
 - ・ 濡れた手で指紋センサ表面を触る
 - ・ 化粧品や薬品、砂や泥などの付いた汚れた手で指紋センサ表面を触る
 - ・ 指紋センサ表面にシールなどを貼る
 - ・ 指紋センサ表面を静電気を帯びた手や布などで触る

お願い 操作にあたって

- 指紋センサをご使用になるときには、次の点にご注意ください。
 - ・ 手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取ってから使う。
 - ・ 金属に手を触れるなどして、静電気を取り除いてから使う。特に空気が乾燥する冬場には注意する。
- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次の点をお守りください。
 - ・ けがをしている指では登録しない。
 - ・ 指がふやけた状態では登録しない。
 - ・ 手が荒れた状態では登録しない。
 - ・ 指が汚れた状態では登録しない。指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録する。
- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
 - ・ 指紋センサの表面が汚れていないか、確認する。汚れている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使う。指紋センサ表面は強くこすらない。故障するおそれがあります。
 - ・ 指の状態を確認する。傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、他の指での再登録をおすすめします。
 - ・ 指の置きかたに注意してください。
 - ・ 指と指紋センサが平行になるように指を置く。
 - ・ 指紋センサと指の中央を合わせる。
 - ・ 指紋センサの上に第一関節がくるように置く。
 - ・ スライドするときにはゆっくりと一定のはやさでスライドさせる。それでも認識されない場合は、はやさを調整する。



- その他
 - ・ 指紋の認識率には、個人差があります。
 - ・ 指紋認証技術は、データやハードウェアの完璧な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、一切の責任は負いかねますので、ご了承ください。

2 Windows ログオンパスワードを設定する

Windows のセットアップ終了後、または新たに Windows のユーザアカウントを作成しそのユーザでログオン後、メッセージ画面が表示されます。[登録] ボタンをクリックし、画面の指示に従って操作すると、指紋を登録できます。

参照▶ 詳細について「本節 ③ 指紋を登録する」

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、Windows ログオンパスワードを設定しておく必要があります。Windows ログオンパスワードを設定していない場合は、設定してください。

参照▶ Windows ログオンパスワードの設定方法

『さあ始めよう 4 章 1 Windows ログオンパスワード』

すでに Windows ログオンパスワードを設定してある場合は、「本節 ③ 指紋を登録する」に進んでください。

お願い

指紋認証の利便性、安全性のメリットを生かすために、より長いパスワードを設定してください。登録されたパスワードは、忘れたときのために必ず控えておき、安全な場所に保管してください。

3 指紋を登録する

Windows ログオンパスワードを設定したら、「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本の指を登録してください。

1 操作方法

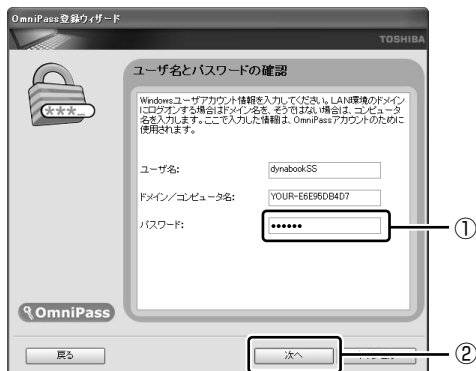
「指紋認証ユーティリティ」でユーザ登録を行います。ユーザ登録では、Windows のユーザアカウントとそのパスワードを登録した後、そのユーザアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。また、登録した Windows のパスワードは、「指紋認証ユーティリティ」の各種機能を使用するためのマスタパスワードとしても使用します。

- 1 指紋を登録するユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Softex] → [OmniPass 登録ウィザード] をクリックする
OmniPass 登録ウィザードが起動します。
- 3 [登録] ボタンをクリックする



[ユーザ名とパスワードの確認] 画面が表示されます。

- 4 [パスワード] 欄に Windows ログオンパスワードを入力し①、[次へ] ボタンをクリックする②



ここで入力した Windows ログオンパスワードが、「指紋認証ユーティリティ」に対するマスタパスワードになります。

[指の選択] 画面が表示されます。

5 画面に表示されている手のイラスト上で、登録したい指をクリックする



選択した指を示す、矢印が表示されます。

初めて登録する場合は、[練習] ボタンをクリックして表示される画面で練習することをおすすめします。

6 [次へ] ボタンをクリックする



[指紋の取得] 画面が表示されます。

7 アキュポイントの右にある指紋センサに登録したい指を軽くのせ、手前側にすべらせる

第1関節を指紋センサの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。指紋は3回認識させた後、確認としてもう1回認識させます。

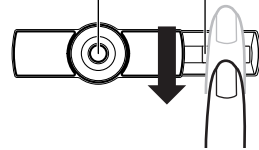
指を動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合、画面にメッセージが表示されます。メッセージに従って、指を動かしてください。

読み取られなかった場合は、指紋が赤色で画面に表示されますので、もう一度認識させてください。指紋が正常に読み取られると、[確認は成功しました] 画面が表示され、指紋が緑色で画面に表示されます。[次へ] ボタンをクリックしてください。

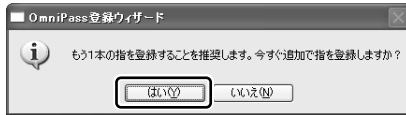
1本目の指の登録の場合は手順8へ、2本目の指の登録の場合は手順10へ進んでください。



アキュポイント 指紋センサ

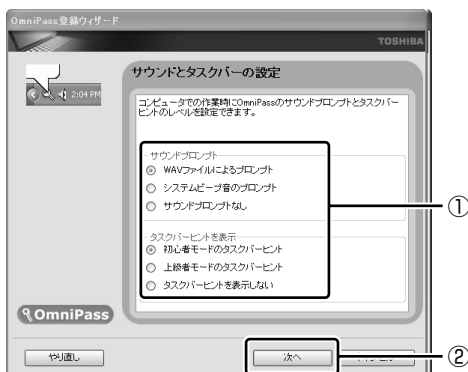


8 メッセージの内容を確認し、[はい] ボタンをクリックする 必ず2本の指を登録してください。



9 手順5から手順7を実行する

10 サウンドとタスクバーの設定をチェックし①、[次へ] ボタンをクリックする②



11 [完了] ボタンをクリックする

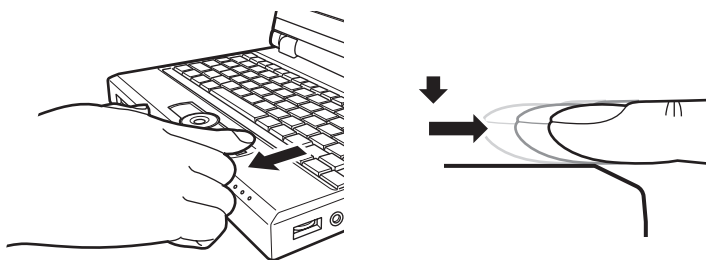


ユーザ登録が完了しました。

指紋センサに指をうまく認識させるには

- 1 指紋センサに対して指をまっすぐ出し、指の第1関節を寝かせた状態で軽く指紋センサ中央の上におく
- 2 第1関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサに触れるように手前に水平に引く

指先だけ指紋センサにのせると、指紋が認識されない場合があります。第1関節から先端にかけて指のはら部分が指紋センサに触れるように、適度なスピードでスライドさせてください。



4 指紋認証を行う

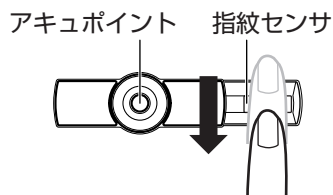
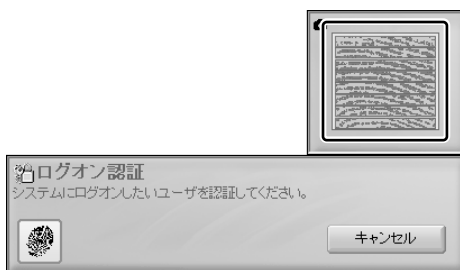
指紋を登録すると、指紋センサに指紋を指をスライドさせることで、Windowsへログインできます。また、パソコンを複数のユーザで使用している場合、ユーザの選択も省略できます。

1 操作方法

1 電源を入れる

Windowsが起動し、[ログオン認証]画面が表示されます。

2 指紋登録した指をアキュポイントの右にある指紋センサにのせ、手前側にすべらせる



指紋が認証されると画面に緑色で指紋が表示されます。

2 PDF マニュアルの起動方法

「指紋認証ユーティリティ取扱説明書」の起動方法は、次のとおりです。

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [指紋認証ユーティリティ取扱説明書] をクリックする

3 ヘルプの起動方法

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Softex] → [OmniPass コントロールセンター] をクリックする
- 2 [ヘルプ] ボタンをクリックする

お願い 指紋センサの取り扱いと手入れ

指紋センサ表面が汚れている場合には、認識率が低下する可能性があります。眼鏡ふき（クリーナークロス）などのきれいな柔らかい布で軽くふき取ってからお使いください。

指紋センサ表面を強くこすらないでください。また、洗剤などは使用しないでください。故障するおそれがあります。

付録

本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

-
- 1 本製品の仕様 186
 - 2 言語コード一覧 188
 - 3 技術基準適合について 190
 - 4 無線LANについて 202
 - 5 Bluetoothについて 210

1 本製品の仕様

仕様についての詳細は、別紙の『libretto U100 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

1 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

参照▶ 表示可能色数の詳細について

「1章 1-①-1 表示可能色数」

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)	
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70	
2,3		80×25字				
0*,1*		40×25字	8×14			
2*,3*		80×25字				
0+,1+		40×25字	8(9)×16			
2+,3+		80×25字				
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K		
6	640×200ドット	2/256K				
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ		
7+			8(9)×16			
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	60	
E		640×200ドット				
F		640×350ドット	8×14	モノクロ		
10				16/256K		
11		640×480ドット	8×16	2/256K		60
12				16/256K		
13		320×200ドット	8×8	256/256K		70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
-	SVGA グラフィックス	640 x 480ドット	-	256/256K	60/75/85 /100
-		800 x 600ドット	-		
-		1024 x 768ドット	-		
-		1280 x 768ドット*1	-		
-		1280 x 1024ドット*2	-		
-		1400 x 1050ドット*2	-		
-		1600 x 1200ドット*2	-		
-		1920 x 1440ドット*2	-		
-		2048 x 1536ドット*2	-		
-		640 x 480ドット	-		
-		800 x 600ドット	-		
-		1024 x 768ドット	-		
-		1280 x 768ドット*1	-		
-		1280 x 1024ドット*2	-		
-		1400 x 1050ドット*2	-		
-		1600 x 1200ドット*2	-		
-		1920 x 1440ドット*2	-		
-		2048 x 1536ドット*2	-		
-		640 x 480ドット	-		
-		800 x 600ドット	-		
-	1024 x 768ドット	-			
-	1280 x 768ドット*1	-			
-	1280 x 1024ドット*2	-			
-	1400 x 1050ドット*2	-			
-	1600 x 1200ドット*2	-			

* 1 外部ディスプレイに 1280 x 768 ドットで表示すると、縦方向が伸びて表示されます。

* 2 本体液晶ディスプレイに表示する場合は、実際の画面 (1280 x 768) 内に、仮想スクリーン表示します。

注) 一部の画面モードはディファレントリフレッシュモード、マルチモニタでは使用できません。

2 言語コード一覧

クイックプレイで言語コードを入力する場合、次の表を参照してコード番号を入力してください。

参照 → 「3章 4-4-3-言語設定」

コード	言語	コード	言語	コード	言語
AA	アフアル語	EO	エスペラント語	IT	イタリア語
AB	アブバジア語	ES	スペイン語	IW	ヘブライ語
AF	アフリカーンス語	ET	エストニア語	JA	日本語
AM	アムハラ語	EU	バスク語	JI	イディッシュ語
AR	アラビア語	FA	ペルシャ語	JW	ジャワ語
AS	アッサム語	FI	フィンランド語	KA	グルジア語
AY	アイマラ語	FJ	フィジー語	KK	カザフ語
AZ	アゼルバイジャン語	FO	フェロー語	KL	グリーンランド語
BA	バシキール語	FR	フランス語	KM	カンボジア語
BE	ベラルーシ語	FY	フリジア語	KN	カンナダ語
BG	ブルガリア語	GA	アイルランド語	KO	韓国語
BH	ビハーリー語	GD	スコットランドゲール語	KS	カシミール語
BI	ビスラマ語	GL	ガルシア語	KU	クルド語
BN	ベンガル語、バングラ語	GN	グアラニ語	KY	キルギス語
BO	チベット語	GU	グジャラート語	LA	ラテン語
BR	ブルトン語	HA	ハウサ語	LN	リンガラ語
CA	カタロニア語	HI	ヒンディー語	LO	ラオス語
CO	コルシカ語	HR	クロアチア語	LT	リトアニア語
CS	チェコ語	HU	ハンガリー語	LV	ラトビア語、レット語
CY	ウェールズ語	HY	アルメニア語	MG	マダガスカル語
DA	デンマーク語	IA	国際語	MI	マオリ語
DE	ドイツ語	IE	国際語	MK	マケドニア語
DZ	ブータン語	IK	エスキモー語	ML	マラヤーラム語
EL	ギリシャ語	IN	インドネシア語	MN	モンゴル語
EN	英語	IS	アイスランド語	MO	モルダビア語

コード	言語	コード	言語	コード	言語
MR	マラータ語	SA	サンスクリット語	TI	ティグリニャ語
MS	マレー語	SD	シンド語	TK	トゥルクメン語
MT	マルタ語	SG	サンゴ語	TL	タガログ語
MY	ミャンマー語	SH	セルビアクロアチア語	TN	セツワナ語
NA	ナウル語	SI	シンハラ語	TO	トンガ語
NE	ネパール語	SK	スロバキア語	TR	トルコ語
NL	オランダ語	SL	スロベニア語	TS	ツォンガ語
NO	ノルウェー語	SM	サモア語	TT	タタール語
OC	プロバンス語	SN	ショナ語	TW	トウィ語
OM	(アフアン) オロモ語	SO	ソマリ語	UK	ウクライナ語
OR	オリヤー語	SQ	アルバニア語	UR	ウルドゥー語
PA	パンジャブ語	SR	セルビア語	UZ	ウズベク語
PL	ポーランド語	SS	シスワティ語	VI	ベトナム語
PS	パシュトー語	ST	セストゥ語	VO	ボラピュク語
PT	ポルトガル語	SU	スンダ語	WO	ウォロフ語
QU	ケチュア語	SV	スウェーデン語	XH	コーサ語
RM	ラエティ＝ロマン語	SW	スワヒリ語	YO	ヨルバ語
RN	キルンディ語	TA	タミール語	ZH	中国語
RO	ルーマニア語	TE	テルグ語	ZU	ズール語
RU	ロシア語	TG	タジク語		
RW	キニヤルワンド語	TH	タイ語		

3 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 → 『困ったときは 3 章 その他 -
Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい』

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



参照 → 省電力設定について 「5 章 2 省電力の設定をする」

FCC information

Product name : libretto U100

Model number : PLU10

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. And, a cable with ferrite core must be used between the external devices and the computer's Modular jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PLU10* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。


アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2005年4月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

 参照 設定について

《オンラインマニュアル（検索）：内蔵モデム用地域選択ユーティリティ》

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. It has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.

In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.

Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.

For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

The IC registration number of the modem is shown below.

Canada:4005B-ATHENS

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and

-
- b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
 - Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
 - The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
 - When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.
 - The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
 - Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
 - Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
 - Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
 - The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
 - Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
 - It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
 - When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
 - This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

4 無線 LAN について

1 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線周波数帯	IEEE802.11g, IEEE802.11b	2.4GHz (2400-2497MHz)
変調方式	IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

2 サポートする周波数帯域

無線LAN がサポートする 2.4GHz 帯のチャンネルは、国／地域内で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャンネルセット」参照）。各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【無線 IEEE802.11 チャンネルセット】

IEEE802.11b／IEEE802.11g (2.4GHz) の場合

周波数帯域	2400-2497 MHz
チャンネルID	
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457 * ¹
11	2462
12	2467 * ²
13	2472 * ²
14	2484 * ²

* 1 購入時に設定されているチャンネルです。

* 2 これらのチャンネルが使用可能かどうかは、使用する無線LAN モジュールによって異なります。使用可能チャンネルについては、同梱の『無線LAN ご使用できる国／地域について』を参照してください。

無線LAN をインストールする場合、チャンネル設定は、次のように管理されます。

- インフラストラクチャで無線LAN 接続する場合、ステーションが自動的に無線LAN アクセスポイントのチャンネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャンネルを切り替えます。無線LAN アクセスポイントの設定チャンネルもこの範囲にする必要があります。
- アドホックモードで無線LAN 接続する場合は、購入時の設定ではチャンネル 10 が使用されます。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は 2,400MHz～2,483.5MHz です。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯 2,427MHz～2,470.75MHz と重複しています。

【1. ステッカー】

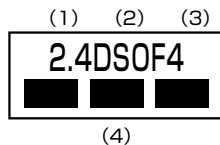
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【2. 現品表示】

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
- (2) DS : 変調方式が DS-SS 方式であることを示す。
OF : 変調方式が OFDM 方式であることを示す。
- (3) 4 : 想定される与干渉距離が 40m 以下であることを示す。
- (4) ■ ■ ■ : 2,400MHz～2,483.5MHz の全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【3. 東芝PCダイヤル】

受付時間 : 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル : 0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：PA3426U-1 MPC

株式会社 ディーエスピーリサーチ

認証番号：D04-0057003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter 製品は、Direct Sequence Spread Spectrum (DSSS) / Orthogonal Frequency Division Multiplexing (OFDM) 無線技術を使用するあらゆる無線 LAN 製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定の IEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision B/G)（無線 LAN 標準規格(版数 B/G)）
- Wi-Fi Alliance の定義する Wireless Fidelity (Wi-Fi) 認証

無線 LAN 規格ラベルはバッテリーパックを取りはずすと確認できます。

【健康への影響】

Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter 製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter 製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Wireless LAN の使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中で Wireless LAN 装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN 装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】

Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter 製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。本製品は、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L 'utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.

To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empêcher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit être utilisé à l'intérieur et devrait être placé loin des fenêtres afin de fournir un écran de blindage maximal. Si le matériel (ou son antenne d'émission) est installé à l'extérieur, il doit faire l'objet d'une licence.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● Europe - EU Declaration of Conformity

This device complies with the essential requirements of the R&TTE Directive 1999/5/EC with essential test suites as per standards:

België/	<p>For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.</p>
	<p>Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke grond over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.</p>
	<p>Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de l'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter l'IBPT.</p>
Deutschland:	<p>License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow</p> <p>Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.</p>
France:	<p>Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.</p> <p>Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1- 7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter l'Autorité de Régulation des Télécommunications (http://www.art-telcom.fr) pour la procédure à suivre.</p>
Italia:	<p>License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed</p> <p>E' necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. L'uso per installazione in esterni non e' permessa.</p>
Nederland	<p>License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow</p> <p>Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure</p>

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a Particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.

The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Atheros AR5005GS Wireless Network Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Wireless LAN has been tested with Bluetooth transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

● Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement. The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

5 Bluetooth について

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.2.0+EDR
	無線周波数帯	2.4GHz (2402~2480MHz)
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	出力*1	最大+4dBm (Power Class2)
	受信感度*1	-70dBm
	通信距離	見通し10m*2
電源電圧	3.3V	
消費電流	最大200mA	

* 1 アンテナの効率は含まれません。

* 2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetooth モジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。

多くの場合、無線通信は使用する国の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

各国で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 Bluetooth™ 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

【ステッカー】

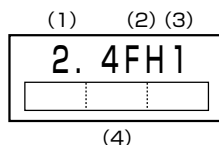
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている以下のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCダイヤルへお問い合わせください。

【現品表示】

本製品と梱包箱には、以下に示す現品表示が記載されています。



- (1) 2.4 : 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
- (2) FH : 変調方式がFH-SS方式であることを示す。
- (3) 1 : 想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
- (4)
|
|
 : 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

【東芝PCダイヤル】

受付時間 / 9:00～19:00（年中無休）

ナビダイヤル / 0570-00-3100

4 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するとき無線局の免許は必要ありません。

無線設備名：EYXF3CS

財団法人 電気通信端末機器審査協会

認証番号 D05-0074001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

5 お客様に対するお知らせ

【無線製品の相互運用性】

Bluetooth™ 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用するあらゆる Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.2.0+EDR
- Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

メモ

本製品はすべての Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。

ご使用にあたっては、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) 本製品は Bluetooth™ Version2.0+EDR 仕様に準拠しております。Bluetooth™ Version1.0B 仕様の Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の Wireless-LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

(3) Bluetooth™ と Wireless-LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth™、Wireless-LAN のいずれかの使用を中止してください。

Bluetooth 規格ラベルはバッテリーパックを取りはずすと確認できます。

【健康への影響】

Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品は他の無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。

Bluetooth™ 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。

ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者が Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。以下にその例を示します。

- 飛行機の中で Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた製品を使用する場合
- 他の装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth™ ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."

L' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit être prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.

The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

Caution

FCC Interference Statement

This device complies with part 15 of the FCC rules.

Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Note that any changes or modifications to this equipment not expressly approved by the manufacturer may void the authorization to operate this equipment.

Caution Exposure to Radio Frequency Radiation

The radiated output power of the Bluetooth™ Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth™ Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. Refer to the Regulatory Statements as identified in the documentation that comes with those products for additional information.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

Taiwan

Article 14 Unless approved, for any model accredited low power radio frequency electric machinery, any company, trader or user shall not change the frequency, increase the power or change the features and functions of the original design.

Article 17 Any use of low power radio frequency electric machinery shall not affect the aviation safety and interfere with legal communications. In event that any interference is found, the use of such electric machinery shall be stopped immediately, and reusing of such products can be resumed until no interference occurs after improvement.

The legal communications mentioned in the above item refer to radio communications operated in accordance with telecommunication laws and regulations.

Low power radio frequency electric machinery shall resist against interference from legal communications or from industrial, scientific and medical radio emission electric machinery.

付録

さくいん

B

Battery LED	141
BIOS セットアップ	161
Bluetooth Manager	51
Bluetooth Stack for Windows by Toshiba	52
Bluetooth 機能	48
Bluetooth について	210

C

CD/DVD 静音ユーティリティ	71
CD / DVD の取り扱い	107
ConfigFree	46

D

Disk LED	15
DVD スーパーマルチドライブ	97

I

i.LINK (IEEE1394) コネクタ	131
i.LINK (IEEE1394) 対応機器の 取り付け	132
i.LINK (IEEE1394) 対応機器の 取りはずし	132
InterVideo WinDVD	108

L

LAN ケーブルの接続	30
LAN コネクタ	30

P

PC カードスロット	119
PC カードの取り付け	119
PC カードの取りはずし	120

S

SD カードスロット	25
SD メモリカードの セットと取り出し	27

T

TFT カラー液晶ディスプレイ	12
TOSHIBA Virtual Sound	23

U

USB コネクタ	122
USB 対応機器の取り付け	122
USB 対応機器の取りはずし	123

W

WEP 機能	42
--------------	----

ア

アンインストール	157
----------------	-----

イ

インストール	156
--------------	-----

エ

液晶ディスプレイの取り扱い	14
---------------------	----

オ

オンラインマニュアル	10
------------------	----

カ

解像度を変更する	13
外部ディスプレイの取り付け	124
外部ディスプレイの取りはずし ...	125
画面の明るさを調整する	14

キ

休止状態 149

ク

クイックプレイ 74
 クイックプレイ (CD) 79
 クイックプレイ (DVD) 82
 クイックプレイの再インストール ... 91

コ

コア 53

サ

サウンドコントローラ 21

シ

指紋センサ 176
 指紋センサの取り扱い 184
 指紋認証ユーティリティ 176

ス

スタンバイ 149

ト

東芝HDDプロテクション 16
 東芝省電力 148
 時計用バッテリー 143

ナ

内蔵モデム用
 地域選択ユーティリティ 55

ハ

バックライト用LED 14
 バッテリ駆動で使用できる時間 ... 145
 バッテリ充電量の確認 141
 バッテリの充電完了までの時間 ... 144
 バッテリの充電方法 144
 バッテリの充電保持時間 145
 バッテリパック 140
 バッテリパックの交換 146
 バッテリを長持ちさせるには 145
 パネルスイッチ機能 153

ヒ

ビデオモード 186
 表示可能色数 12
 表示装置の切り替え 125

フ

プラグアンドプレイ 117
 フロントオペレーションパネル 72

ヘ

ヘッドホン出力端子 134
 ヘッドホンの接続 134

ホ

ボリュームコントロール 19
 ボリュームダイヤル 19

マ

マイク入力端子 133
 マイクロホンの接続 133

ミ

ミニ RGB ケーブル	124
ミニ RGB コネクタ	124

ム

無線 LAN	33
無線 LAN について	202

メ

メモリスロット	135
メモリの交換	136
メモリ容量の確認	138

モ

モジュラーケーブルの接続	53
モジュラージャック	53

ユ

ユーザパスワードの登録／削除 ...	167
ユーザパスワードを 忘れてしまったとき	169

リ

リブレット DVD ドック	58
リリース情報	8

ロ

録音レベルの調整	20
----------------	----

ワ

ワイヤレスコミュニケーション LED	44, 51
ワイヤレスコミュニケーション スイッチ	44, 50

